

Ⓜ

大日本租稅志

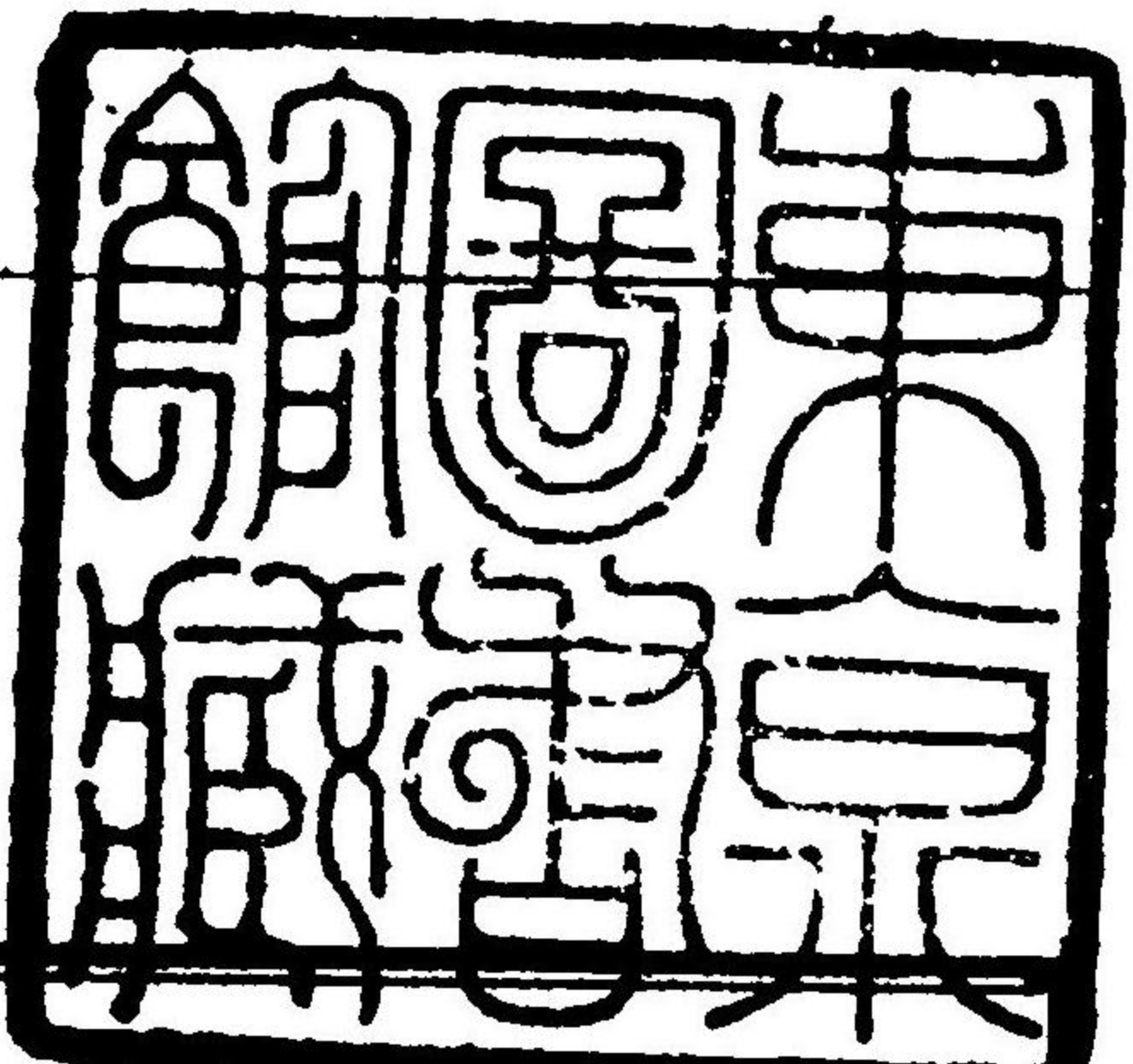
五

18
26

朝 春 園 泉 東				
3 冊	2 号	10 架	1 9 函	類

大日本租稅志

三十一



大日本租稅志卷之四十五

大藏權少書記官正七位野中準等修



板權免許料

〔按〕本料ハ印板圖畫他人ノ剽竊圖刻ヲ防クカ爲
 メ特ニ官准ヲ請ヒ其製本ノ代價ヲ納ムルモノニ
 シテ明治八年以來收スル所ナリ初メ圖書ノ
 印板ハ官其稿本ヲ檢ヌ明治二年刻成納本ノ令
 アリ爾來印板ノ圖書五部ヲ收納シ五年減シテ
 三部トシ板權ノ有無ヲ問ハス之ヲ納メシテ八
 年以後尙ホ板權ニ仍レリ納本ハ官府ノ書庫ニ
 藏シ永ク保存スルヲ以テ要旨トス官府ノ書庫ニ
 關スルモノ保存スルヲ以テ又寫眞條例ヲ起
 シ亦免許料ノ收入アリ併テ之ヲ摘載ス

〔今上天皇明治八年九月三日布告〕圖書ヲ著作シ又ハ

外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スルトキハ三十年間專

賣ノ權ヲ與フ之ヲ板權ト謂フ但板權ヲ願フト願ハ
サルトハ隨意トス

板權ヲ得ルモノハ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ
納ムヘシ

免許狀ヲ失フ者ハ更ニ之ヲ與ヘ手數料トシテ製本
三部ノ定價ヲ納メシムヘシ

従前出版ノ圖書ト雖モ板權ヲ願フニ於テハ免許料
ヲ上納スヘシ

〔十月十三日內務省達〕板權免許料七月ヨリ十二月マ
テノモノハ翌年三月限り一月ヨリ六月マテノモノ
ハ九月限り上納スヘシ

〔九年二月九日布告〕板權ノ賣買又ハ改題等ノトキハ
免許狀ニ裏書スルニヨリ其餘白ナキニ至ラハ更ニ
書換ヲ願ヒ手數料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘ
シ

〔五月九日內務省達〕板權免許料ハ本年一月ヨリ六月
マテヲ集括シ十五日以内ニ租稅寮ニ上納スヘシ但
本年七月以後モ之ニ准ス

〔卅一日布告〕便宜ニ因リ免許狀ヲ返納スル者ハ手數
料トシテ金三十拾錢ヲ納ムヘシ

〔六月十七日布告〕凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫眞
シテ專賣ヲ願フモノハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ

之ヲ寫眞板權ト稱ス

板權ヲ得タル者ハ免許料トシテ一板ニ十二葉ノ定價ヲ納ムヘシ

免許狀ヲ失フ者ハ更ニ之ヲ與ヘ手數料トシテ一板ニ六葉ノ定價ヲ納メシムヘシ

訴訟用紙諸稅

〔按〕凡ソ訴訟人事金穀土地雜件ニ至ルマテ原告被告等ノ文書皆其用紙ノ制アリテ需用者ヲシテ購求セシム之ヲ訴訟用紙諸稅ト稱ス明治九年ヨリ實施スル所ナリ

〔今上天皇明治八年十二月二十日布告〕今般訴訟用紙規則左ノ如ク定メ來九年二月十五日ヨリ施行ス

凡ソ訴訟ヲ生シ公裁ヲ仰クトキ原被告人ヨリ裁判官ニ出ス訴答及ヒ證書ノ寫等一切ノ書面ハ野紙ヲ用フヘシ

原告人ニ取ル被告人住所書並ニ之ヲ得ル爲メ町村役場ノ文通ハ第五項ノ野紙ヲ用フヘシ

訴訟中證據ト爲サントスル原被告人ノ文通モ第五項ノ野紙ヲ用フヘシ

人民ヨリ官府ニ關涉スル訴訟ニシテ官府ヨリ裁判官ニ出ス書面モ規則ニ照シ野紙ヲ用フヘシ

野紙ヲ用ヒサル書面ハ裁判官之ヲ受理セス
裁判所ヨリ原被告人或ハ引合人等ノ呼出狀ハ都テ

第五項ノ罫紙ヲ用フヘシ
訴訟用罫紙ハ各府縣下適宜ノ場所ニ於テ賣下セシムヘシ

訴訟用罫紙用方並ニ種類定價左ノ如シ

第一項 金穀ノ類

金拾圓未滿米五石未滿雜穀拾石未滿

黃色罫紙 定價一枚 金壹錢

但一枚十六行一行十五字以下皆同シ

金拾圓以上百圓未滿米五石以上五拾石未滿雜

穀拾石以上百石未滿

黃綠色罫紙 定價一枚 金貳錢

金百圓以上五百圓未滿米五拾石以上貳百五拾石未滿雜穀百石以上五百石未滿
橙黃色罫紙 定價一枚 金三錢
金五百圓以上千圓未滿米貳百五拾石以上五百石未滿雜穀五百石以上千石未滿

綠色罫紙 定價一枚 金四錢

金千圓以上米五百石以上雜穀千石以上

黑色罫紙 定價一枚 金五錢

第二項 人事ノ類 家督相續養子雇人等ノコトニ關スル訴訟ヲ開ク

青色罫紙 定價一枚 金壹錢六釐

第三項 土地並ニ建物ノ類 地所境界田畑建家等ノ訴訟ヲ開ク

紫色罽紙 定價一枚 金壹錢四釐

第四項 雜事ノ類 以上ノ三項ニ關セザル一切ノ訴訟ヲ關ス

紅色罽紙 定價一枚 金壹錢貳釐

第五項 文通ノ類 裁判所ヨリ原告人等呼出狀其外町村役場及ヒ原告被告ノ

通文

赭色罽紙 定價一枚 金五釐

裁許狀罽紙ノ種類定價左ノ如シ

第一項 金穀ノ類

金拾圓未滿米五石未滿雜穀拾石未滿

黃色罽紙 定價一枚 金貳錢

但一枚十二行一行十二字以下皆同シ

金拾圓以上百圓未滿米五石以上五拾石未滿雜穀拾石以上百石未滿

黃綠色罽紙 定價一枚 金三錢

金百圓以上五百圓未滿米五拾石以上貳百五拾石未滿雜穀百石以上五百石未滿

橙黃色罽紙 定價一枚 金四錢

金五百圓以上千圓未滿米貳百五拾石以上五百石未滿雜穀五百石以上千石未滿

綠色罽紙 定價一枚 金五錢

金千圓以上米五百石以上雜穀千石以上

黑色罽紙 定價一枚 金六錢

第二項 人事ノ類

青色罫紙 定價一枚 金三錢貳釐

第三項 土地並ニ建物ノ類

紫色罫紙 定價一枚 金貳錢八釐

第四項 雜事ノ類

紅色罫紙 定價一枚 金貳錢四釐

訴訟中裁判所ヨリ原被告人等呼出ニ用フル罫紙員數ノ定價及ヒ原被告人ニ下付スル裁許狀罫紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳ニ辨納スヘシ
〔九年一月十七日大藏省達〕訴訟用罫紙税金ハ每一月集括シ翌月十五日限り租稅寮ニ上納スヘシ

代言免許料

〔按〕本料ハ明治九年ニ起リ人民詞訟ノ代言ヲ以テ業トスル者其能否ヲ驗シ免狀ヲ付與シテ收入スル所ナリ

〔今上天皇明治九年二月廿二日司法省布達〕今般代言人規則ヲ設ルニヨリ本年四月一日以後ハ免許ヲ得サル者ニ代言ヲ委マヘカラス
代言人タラント欲スル者ハ先ツ專ラ代言ヲ行ハント欲スル裁判所ヲ記シタル願書ヲ出シ所管地方官ノ検査ヲ乞ヒ地方官之ヲ検査スルノ後司法省ニ具狀シ其許スヘキ者ハ司法卿之ニ免許狀ヲ下付ス

免許狀ヲ得タル者ハ免許料トシテ金拾圓ヲ本省ニ納ムヘシ但免許ハ一年ヲ以テ限トス續テ其職務ヲ行ハント欲スル者ハ滿期ノ際更ニ免許ヲ受クヘシ〔同日司法省達〕代言人免許料ハ十日内ニ地方官ニ納メシメ地方官ハ集括シテ一年四次本省ニ納付スヘシ

〔九月十九日司法省布達〕代言免許ノ一年八月數ヲ以テ通算シ十二个月ヲ以テ期トス則チ免許狀ニ登記ノ月ヨリ起算スヘシ

賣藥稅

〔按〕賣藥ハ初メ文部省之ヲ管掌シ唯其藥味分量用法功能ヲ申報セシムルニ止リ未タ課稅ノコトアラス而ルニ其營業者所在是レ多ク管理ノ法設ケサル可ラヌ因テ明治十年ニ至リ更ニ規則ヲ制定シ製藥受賣ヲ分チ營業稅鑑札料收入ノ制起リ免許及ヒ鑑札ノ付與皆内務省ニ於テ掌ス

〔今上天皇明治十年一月二十日布告〕賣藥規則左ノ如ク定ム

賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥散藥煎藥等家方ヲ以テ合劑シ販賣スルモノヲ謂フ

賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シ其管廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

賣藥ヲ受賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモ

ノハ營業者ノ所有スル官許公文ノ寫及ヒ契約書ヲ
 添ヘ其管廳ニ出願シ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
 賣藥營業者及ヒ受賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子
 ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ管廳
 ヨリ行商鑑札ヲ受クヘシ
 營業鑑札受賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ
 滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚ホ免
 許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑
 札ヲ受クヘシ
 賣藥營業者及ヒ受賣者ハ左ノ税金鑑札料ヲ上納ス
 ヘシ

賣藥營業稅

藥劑一方

一年金貳圓

賣藥營業鑑札料

藥劑一方

一枚金貳拾錢

賣藥受賣鑑札料

藥劑ノ方數ニ拘ラス

一枚金貳拾錢

賣藥行商鑑札料

藥劑ノ方數ニ拘ラス一人

一枚金貳拾錢

水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ受ルト
 キハ其鑑札料ノ半額ヲ納ムヘシ

税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日

限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札料ハ其時々管廳ニ上納スヘシ

六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納稅スヘシ

〔三月十二日內務省達〕賣藥營業稅金竝ニ營業鑑札料受賣鑑札料行商鑑札料ハ毎年二月八月ノ兩度ニ租稅局ニ納付スヘシ

〔七月十三日內務大臣省達〕賣藥營業鑑札受賣鑑札ハ所有人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニシテ別戶支店等ハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所有セサレハ營業

スルヲ得ヘカラス

〔十一年二月十五日布告〕賣藥稅金本年ヨリ前半年分ヲ一月三十一日後半年分ヲ七月三十一日限リ管廳ニ上納スヘシ

海外旅券其他免許手数料

〔按〕本科目ノ著キモノハ外國船乘込清國人籍牌航券ノ六種トス其他尙ホ數種アリト雖モ皆外國人ニ關シ法令規則ノ一般ニ及ハサルモノナリ蓋シ外國人ヨリノ收入ハ舊幕府以來ノ慣例ニ仍ルモノ多ク且開港場ノ景況ニ依リ各其宜ニ隨ヒ異同少カラス今六種典廢ノ要領ヲ摘録ス

外國船乘込手数料

〔按〕是レ外國船ニ乗リ内地各開港場ノ間ニ往來
スル者ヨリ收入スルモノニシテ初メ其地方廳
ノ證書ヲ携帶セシメ手数料未タ一定セズ二年
之ヲ改定シ五年一タヒ廢停セリ九年ニ至リ更
ニ規則ヲ起シテ
徴收スル所ナリ

〔今上天皇明治二年九月外務省開港場ニ達貿易場各港
ヨリ外國船ニ乗リ他ノ開港場ニ至ル者或ハ外國船
ヲ雇フトキ免許狀下付ノ手数料従前區々ナルニヨ
リ以來左ノ如ク定ム

- 各港行手数料 一人 金百匹
- 外國船雇行手数料 一艘 金千匹

〔五年八月十七日布告〕従前開港場ヨリ外國船ニ乗リ
内地他港ニ至ルトキ免狀ヲ受ケ手数料ヲ納メシモ

ノ以來廢止ス但外國行ハ舊ノ如シ

〔按〕大藏省建議ノ略ニ曰ク開港場ヨリ外國郵便
船ニ乗シ國內他港ニ之ク者免狀下付手数料收
入ノコト密ニ施行有リト雖モ是レ兵馬騷擾ノ
後戸籍紛亂庶民流移等ヲ預防スルカ爲メ設ル
所ノ然ルニ方今戸籍法ノ釐革スル復メ脱籍
ノ者有ルヘカラス宜ク廢除スヘシト乃チ茲可
此布告アリ

〔九年三月十八日布告〕外國船ニ乗リ旅行セントスル
者ハ其出船スル地ノ管廳ニ申出テ乘船證書ヲ受ケ
一枚ニ手数料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ
〔四月廿九日布告〕乘船證書手数料金貳拾五錢ヲ金拾
錢ト改正ス

清國人籍牌手數料

〔按〕是レ清國政府我各開港場ニ領事ヲ置クマテ各港ノ在留人其籍籍ヲ明ニスル爲メ籍牌ヲ付與シテ收入スル所ナリ十一年理事官來任アルニ及テ乃チ之ヲ廢止セリ

〔今上天皇明治七年四月十日開拓使開港場府縣ニ達〕籍牌ハ身分ニ應シ手數料トシテ上等金貳圓下等金五拾錢ヲ納メ七月ヨリ十二月マテニ受ル者ハ其半額トス但十六歲未滿ノ男及ヒ婦女ハ其等額ノ半ヲ納ムヘシ滯留三十日ヲ越ヘサル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス籍牌ヲ紛失スル者ハ更ニ定額手數料ヲ納テ之ヲ受クヘシ其水火盜難ニ罹ルハ半額トス
毎年一月四日ヨリ日數二十日ノ間ニ其管廳ニ到リ

籍牌ヲ改換シ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ

航海公證手數料

〔按〕是レ海外各國ニ航行ノ船舶我國船タルヲ證スルカ爲メ證券ヲ付與スルモノヨリ收入スル所ナリ

〔今上天皇明治七年八月廿七日布告〕航海公證ヲ受ル者ハ其手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ
各開港場管廳及ヒ外國在留日本公使又ハ領事ハ毎年十二月右手數料ヲ外務省ニ納ムヘシ
〔十二年五月十五日布告〕自今航海公證ヲ廢止ス

海員技術試驗料

〔按〕是レ西洋形航洋船ノ船長運轉手機關手ノ技術ヲ驗シ免許狀ヲ付與シテ收入スル所ナリ條中所謂一則二則三則ノ別ハ即チ試驗課程ノ差等ニ由ルナリ今其課率ヲ摘録ス

〔今上天皇明治九年六月六日布告〕船長運轉手及ヒ機

關手ノ免狀ヲ分テ甲乙ノ兩種トナス即チ本免狀假免狀是ナリ

受験人ハ手數料若クハ内務卿ヨリ時々命スル所ノ金額ヲ納ムヘシ

若シ受験人落第スルトキハ既ニ納メシ手數料ノ半額ヲ返付ス

免狀ヲ亡失或ハ竊取セラレ其自己ノ過失ニアラサ

ルヲ證明スルトキハ更ニ之ヲ授與スルニヨリ試驗料ノ半額ヲ納ムヘシ

試驗定日ノ外タリトモ別ニ手數料トシテ金五圓ヲ

納メ臨時試驗ヲ願フ者ハ之ヲ執行ス但落第スルモ既ニ納シ手數料ハ返付セス

受験人ハ左ニ掲載スル試驗料ヲ其試驗所ニ納ムヘシ

第一則ニ從ヒ本免狀ノ試驗料

船長 金拾五圓

船長 一等運轉手ノ本免狀ヲ所有スルモノ 金拾圓

一等運轉手 金拾圓

日本船舶検査規則
第二章 船舶検査
第五節 船舶検査料
第三十條

一等運轉手 二等運轉手ノ本免狀ヲ所有スルモノ 金五圓

二等運轉手 金五圓

一等機關手 金拾五圓

二等機關手 二等機關手ノ本免狀ヲ所有スルモノ 金拾圓

第一則ニ從テ試驗ヲ受ケタル者若シ落第スルトキハ其試驗料ノ半額ヲ返付スヘシ

第二則ニ從ヒ本免狀ノ試驗料

船長 金五圓

一等機關手 金五圓

第三則ニ從ヒ假免狀ノ試驗料

船長 金七圓五拾錢
一等運轉手 金五圓
二等運轉手 金貳圓五拾錢
一等機關手 金七圓五拾錢
二等機關手 金五圓
第二則及ヒ第三則ニ從ヒ試驗ヲ受ケタル者落第スルモ其試驗料ハ返付セス

西洋形船水先免狀手数料

〔按〕是レ西洋形船舶ノ入港ニ方リ其水路嚮導ヲ以テ業トスル者ノ技能ヲ驗シ免狀ヲ下付ンテ收入スル所ナリ

〔今上天皇明治九年十二月十五日布告〕西洋形船舶ノ
水先人トナリ營業スル者ハ免狀ヲ交付スヘシ
免狀ハ次年一月一日以後ハ其効ヲ有セサルモノト
ス
免狀ヲ受ルトキハ金拾圓又其書換コトニ金五圓ノ
手數料ヲ上納スヘシ
〔十一年十二月九日布告〕水先人ハ免狀書換コトニ金
壹圓ノ手數料ヲ上納スヘシ

海外旅券手數料

〔按〕海外旅券ハ初メ海外行免狀ト稱シ官ノ印章
アル免狀ヲ交付シ一年以來施行セリ十一年ニ

至リ此稱呼ヲ用ヒ
手數料ヲ收入ス

〔今上天皇明治十一年二月二十日外務省布達〕從來當
省ヨリ發行スル海外行免狀ヲ海外旅券ト改稱ス
旅券ヲ請フ者ハ外務省又ハ開港場管廳ニ出願シテ
之ヲ受ケ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ但一人
一枚ニ限ル若シ五歳以下ノ小兒其父母ニ伴ハルハ
ハ父母ノ旅券ニ附記ス
内地ニ於テ旅券ヲ受ルノ暇ナク又ハ海外ニ於テ遺
失シタルトキハ其國在留ノ日本公使館又ハ領事館
ニ具申シテ之ヲ請ヒ其手數料金貳圓ヲ納ムヘシ
大日本租稅志卷之四十五終

大日本租稅志卷之四十六

大藏權少書記官正七位野中準等修

琉球藩貢納

〔按〕琉球ハ維新以前鹿兒島藩ニ屬シ出米ト稱シ其租入額壹石コトニ九升貳合ヲ鹿兒島藩ニ貢納セリ明治五年琉球藩ヲ建テ其主ヲ藩王ニ封スルニ及テ舊額ヲ減少シ年々定額ヲ以テ之ヲ朝貢セシム十二年藩ヲ廢シ貢納乃チ廢絶セリ

〔今上天皇明治五年十一月二十日琉球ニ達〕其藩從前鹿

兒島縣ニ納ル租稅自今直ニ租稅寮ニ上納スヘシ

〔按〕是レ外務大藏兩省ノ達スル所ナリ當時兩省官吏ヲ差遣シテ朝貢ノ事ヲ提理セシム今其公文ニ據テ之ヲ錄載ス

〔六年十二月四日外務省 琉球達〕其藩貢納ノコト特別ノ詮議ヲ以テ賦米並ニ代砂糖納ヲ廢シ自今米八千貳百石ヲ常額ト定メ毎年十月十五日ヨリ十二月十五日マテ六十二日間ノ大阪市中平均價直ヲ以テ石代上納シ當分翌年七月マテ延納ヲ許スニヨリ納方ハ大藏省ニ稟申スヘシ

〔十二年四月四日布告〕琉球藩ヲ廢シ沖繩縣ヲ置ク

〔按〕是ニ至リ貢納廢絶シ爾後縣廳舊藩内ノ租稅ヲ直管セリ

附

藩内租稅

〔按〕琉球ノ租稅ハ概テ内地ノ舊法ニ率由スルモノトス地租ヲ定ルニ石盛ヲ以テシ收入スルニ

定免ヲ以テシ石代納アリ口米アリ雜穀納アリ
雜稅ニ船稅燒酎稅等アリ然トモ地ノ遠隔スル
風土ノ別異ナルニ隨テ亦同カフサルモノアリ
リ代糖納段布納浮得稅等是ナリ貴縣ノ後積年
ノ慣例ヲ變更シ未タ遠ニ一般ノ縣治ヲ施ス可
ラサルモノ有テ尙ホ其舊制ニ循ヘリ今沖繩縣
廳ニ於テ編録スルモノヲ全載ス

地租ノ部

檢地ノ事

是ハ慶長十五年舊鹿兒島藩ノ檢地ニシテ其後寛永十二年盛増ト唱ヘ草高壹石ニ付同七升三合六勺五撮ノ當ヲ以テ增高ヲ命シ又同年上木高ト唱ヘ唐芋敷芭蕉敷蘭敷地ノ類ヲ草高ニ結ヒ彼是合シテ現今ノ總高トス其後享保十二年ニ至リ寛永

度ノ例ニ據リ盛増ノコトヲ發令セシニ人民困難
 等ノ故ヲ以テ草高ハ据置キ之ニ代ルニ掛増米ノ
 令ヲ以テス則チ重出米重出米ノ事ハ中含蓄スル
 所ノ盛増出米是ナリ蓋シ右兩度ノ盛増ハ元鹿兒
 島藩ノ要求ニ因リシト云フ

田畑段別及ヒ草高ノ事

是ハ右慶長年度ノ檢地帳及ヒ寛永年度增高ニ付
 書改タル名寄帳ヲ以テ根據トス亦石盛ノ如キハ
 村々ニ依リ多少ノ異同アリト雖モ大概左ノ如シ

上田	十六	中田	十四	下田	十二
上畑	〇八	中畑	〇六	下畑	〇四

屋敷地〇八

右ハ慶長年度石盛ノ大概ニシテ田方ハ分米畑方
 ハ分大豆ヲ以テ草高トシ且之ニ寛永年度ノ增高
 當ヲ加フ又同年度ノ上木高ノ内藺敷ノ類ハ田方
 唐芋敷芭蕉敷ノ類ハ畑方ニ准シテ草高ニ結フ但
 其石盛ノ如キハ地位ニ因テ悉ク異同アリ

地租ノ事

是ハ慶長檢地ノ際村々トモ田畑ノ善惡村柄ノ盛
 衰人民ノ多寡等ヲ一々斟酌シテ田方ハ高壹石ニ
 付若干凡七斗五升五六合畑方同斷貢雜穀若干凡
 斗五升位ヨリ貳斗壹升位迄但雜穀ト取極タルモノ
 ハ重モニ麥下大豆ノ二品ナリ

大日本... 卷之四十六... 三

ニシテ其頃ノ舊記ハナシト雖モ其以後書改タル
 名寄帳ニ記載之アリ概略四公六民ノ無年季永定
 免ニシテ凶年アリト雖モ貢租ノ減額ヲ聽カス又
 豊年タリト雖モ敢テ貢額ノ外ヲ取ラサル舊慣ナ
 リ但檢地帳及ヒ名寄帳中田畑ノ名稱ヲ異ニシテ
 隨テ課税法モ聊カ異ルモノアリ之ヲ左ニ掲ク
 百姓地

是ハ普通ノ耕地ニシテ則チ官有地ナリ課税ノ
 方法前記ノ如シ

仕明請地

是ハ人民勞力ヲ以テ海濱或ハ山野等ヲ開拓シ

則チ人民一個ノ所有地ヲ云フ但税法前ニ同シ
 仕明知行

是ハ其性質仕明請地同様ニシテ知行ノ名稱ア
 ル所以ノモノハ士族ノ所有ニ因テナリ而シテ
 其仕明知行ニ限リ上納高ノ内重出米及ヒ段米
 (段米トハ舊藩中元鹿兒島ニ上納米ヲ草高壹石
 ニ付米壹斗壹升四撮ノ當ヲ以テ差向ル米筋ヲ
 云)ノ分現納ニシテ其餘ハ米雜穀トモ石代納此
 目ノ如キハ穀代納ノ舊例ナリ
 ノ條中ニ詳記セリ

請地

是ハ元百姓地ヨリ分裂スルモノナリ故ニ收税

ハ一般ト異ナルナシ然トモ人民一個ノ所有ヲ云フ其分裂スル原因タル詳ナラス蓋シ往古其土地ヲシテ村民ノ員數ニ應シ分與セシヲ漸々人口ノ減少ニ至ルヲ以テ其土地普ク耕耘スルニ力ナク遂ニ官許ヲ經テ其地ノ幾分ヲ他人ニ譲リ其代金ハ官ニ納入ス是ニ於テ人民一個ノ所有ト云爾

拂請地

是ハ其原由請地ニ稍相似タリ然トモ本島中獨リ具志川北谷ノ兩間切ニ限ルモノニシテ一村困迫ナルヲ以テ貢納ニ力ナク依テ其土地賣却

センコトヲ情願ス官之ヲ許シ他人相當代價ヲ以テ其土地ヲ買受ケ一個ノ所有トス然トモ耕耘ハ依然曩ノ村民ニアルヲ以テ爲ニ救助トシテ米雜穀トモ前項仕明知行同様ノ石代ヲ以テ官納セシムルノ舊慣ナリ蓋シ地所賣却代金ハ該村ノ共有ニ屬セシト云フ是レ前項請地ト異ナル所以ナリ

地頭高

是ハ曩ニ士族ニ給與セシ地ヲ言フ悉ク官有地ナリ而シテ該税法ハ往昔掛藩吏及ヒ村吏等立會檢見シ以テ將來上納高及ヒ百姓作德地頭所

得等ヲ區別セシモノナリ其凡例左ノ如シ

田高貳拾貳石貳斗七升八合九勺六撮 地頭高

此茅五茅九拾六丸キ五束

内 四茅七拾六丸キ五束 壹丸キニ付 米五升廻シ
壹茅貳拾丸キ 同 米四升廻シ

此正米高貳拾八石六斗貳升五合

但茅トハ稻草ヲ云フ又一束ハ一人ノ
片手ニ抱ヘ得ル丈ケノ稻株一九キハ
拾束一茅ハ
千束ヲ云フ

内

五斗壹升四合代口米共

拾壹石六斗八升四勺貳撮

地租及
口米公納

田畠合高ニ掛ル

壹石壹升三合貳勺壹撮

重出米
公納

九石五斗四升壹合六勺八撮 百姓作得

是ハ耕耘者ノ所得トナルモノニシテ正

米高ノ三分一ナリ

六石三斗八升九合七勺 地頭所得

是ハ正米高ノ内ヨリ前行三口差引タル

殘米ニシテ全ク給與セラレタル地頭ノ

祿米ナリ

右ハ田方ノ例ニシテ畑方モ亦麥下大豆等檢見

シ同様ノ算則ヲ以テ取極メタルモノナリ

役地高

是ハ村吏ノ役地ヲ云フ但税法地頭高ニ同シ
 一宮古島及ヒ其屬島ハ皆畑ニシテ聊カ田方モア
レトモ前々田
畑成ノ貢額ハ粟及ヒ白上中下布ノ四品亦八重
扱ナリ
 山島及ヒ其屬島ハ皆田畑方モアレトモ上ニ
同ク畑田成ノ扱ナリニ
 シテ貢額ハ米及ヒ白上中下布ノ四品ニシテ無
 年季永定免ナリ而シテ該稅ハ寛永五年迄草高
 ニ賦課セシニ翌六年ヨリ人員賦課ニ更正ス其
 方法米粟ハ男白上布ハ女何モ十五歳ヨ
リ五十歳マテ白中下
 布ノ二品ハ男女ニ年
同上割賦スルモノトシ其中
 ヨリ男女トモ上中下々ノ四段ニ別テ賦課徴
 收ス假令ハ何十歳ヨリ何十歳迄ハ上位
ニシテ一人ニ付若干トスルカ如シ其以降

人員ノ増減ニ拘ラス年々定納ナリ

掛増米穀ノ事

是ハ舊藩廳租稅要法書類外ノ地租ニシテ其事由
 ハ士族采地ノ内從來繩延又ハ切添地等ノ分該士
 族ト耕耘スル人民ト熟談ノ上相當ノ増米ヲ極メ
 其段舊藩廳ニ屆濟ノ上毎歲人民ヨリ士族ニ請取
 來リシモノニシテ則チ舊藩引繼書類中ニモ該石
 數等掲載セリ

起先區別ノ事

是ハ其濫觴詳ナラス草高ニ免米ヲ乘シ算出セシ
 モノヲ稱シテ起シト云フ又之ニ壹石ニ付壹斗貳

升ツ、加ヘタルモノハ則チ斗立ナルモノニシテ
 租稅穀類渾テ斗立ノ掛ヲサルハナシ又右ニ壹斗
 六升ツ、加ヘタルモノハ藏役人心附此事由末條ニ詳記ス
 迄モ籠リタル現枘ニシテ之ヲ先ト云フ則チ壹石貳斗八升
 又雜穀ハ欠補此事末條ニ詳記ス三斗六升ツ、加ヘタルモ
 ノヲ先ト云フ則チ壹石六斗四升

重出米粟ノ事

是ハ田畠高壹石ニ付三升七合四勺貳撮ヲ課セシ
 モノニシテ則チ三出米ト稱ス曰ク賦米曰ク荒欠
 地出米曰ク掛増米是ナリ其事由左ノ如シ
 賦米ハ往昔鹿兒島藩ヨリ藩知事京坂等ニ往復ス

ル諸入費トシテ高壹石ニ付壹升四合九勺五撮ヲ
 一般ニ賦課セシニ原由シ舊藩中モ同様取立來リ
 シモノナリ
 荒欠地出米ハ前々損地等ノ爲メ貢額ノ減少セシ
 ヲ以テ往昔其減額ノ分ヲ一般ニ割付シ高壹石ニ
 付壹升七合七勺五撮ヲ課セシモノナリ
 掛増米盛増出米トモ云フハ享保十二年ヨリ高壹石ニ付四
 合七勺貳撮ヲ賦課セリ其原由ハ檢地ノ條ニ詳記
 ス

一該重出米ハ素ヨリ田畑トモ米納ノ定ナリト雖モ
 從來願濟ニテ粟ヲ以テ納來タル村方アリ但米壹

石ハ粟壹石ノ計算ナリ

口米雜穀ノ事

是ハ地租米及ヒ雜穀ノ内其地頭タル士族ノ所得米則チニ當ル分並ニ重出米ヲ除クノ外渾テ本租壹石ニ付口貳升ツ、取立ルノ舊例ナ
畑方雜穀納ノ事

是ハ古來畑方本租雜穀高ノ内三分ノ一ハ下大豆三分ノ二ハ麥ノ定則ニシテ雜穀壹石ハ麥下大豆トモ壹石ツ、ナリ該二種ノ石數ノ内村々トモ毎歲定石數アリテ粟白大豆本大豆茶種小豆黍白菘豆粟粳黍粳等ニ成替リ定納ス而シテ右成替納及ヒ定石代納ノ石數

ヲ除キ殘額ハ正麥及ヒ正下大豆納ノ慣例ナリ該雜穀類ト麥下大豆トノ比例左ノ如シ

粟壹石ハ
貳石
但粟ト米トハ同等ノ仕來リナリ
麥下大豆トモ

茶種子壹石ハ
壹石三斗五升
麥下大豆トモ

白菘豆壹石ハ
壹石貳斗五升
同

本大豆壹石ハ
壹石壹斗貳升五合
同

黍 壹石ハ 同 壹石

粟 壹石ハ 同 壹石

但粟粉黍粉ト麥下大豆トノ比例ハ從來右ノ如シト雖モ右ノ分各其精品トノ比例ハ各粉貳石ヲ以テ精品壹石トス

石代納ノ事

是ハ田方貢米額ノ内仕明知行高及ヒ拂請地高ノ二種ニ掛ル本租ハ從來斗立高ヲ以テ定石代納ナリ亦國頭地方及ヒ中頭地方美里間切ノ内九个村伊平屋島伊江島八重山島ハ他間切ニ比較格外米

性相劣ルノ故ヲ以テ每歲本島石代直段ニ三斗貳升入一俵ニ付金三拾錢安則チ壹石ニ付金九拾三錢七釐五毛安ヲ以テ定石代納ノ仕來リナリ又右定石代ノ外正納スヘキ米員該年不作其他ノ情實ヲ以テ臨時石代納ヲ願出ルトキハ右米員ハ斗立及ヒ藏役人心附藏役人心附ノ詳記ス等迄合算シテ石代納ヲ許可ス但國頭其他安直段ノ村々ハ臨時石代ト雖モ前記藏役人心附等迄合算ノ上安直段ヲ以テ取立ルノ慣例ナリ

一畑方貢麥及ヒ下大豆ノ内定石代納二様アリ其一ハ代請石代ト唱へ該年第二種一種二種直段ノ詳ハ該直段取極方ノ

條ニ記 石代直段ニ百姓心附トシテ壹升ニ付金貳
 釐安則チ壹石ニ付金貳拾錢安ヲ以テ本租斗立ト
 モ算計ス其濫觴詳ナラス其二ハ地租ノ條ニ記セ
 シ所ノ仕明知行高及ヒ拂請地高ニ掛ル貢麥此二
限リ畑方ハ皆買ニシテ本租斗立該年第一種石代
 直段ヲ以テ算出ス其他麥下大豆トモ正納スヘキ
 石數臨時石代納ヲ願出ルトキハ前條ノ通斗立藏
 役人心附及ヒ欠補欠補ノ事ハ末等迄合計シテ第
 一種石代直段ヲ以テ取立ルノ舊慣ナリ
 石代直段取極方ノ事
 是ハ每歲米ハ八月十六日ヨリ九月四日マテ舊曆
七月

初旬ヨリ二十日間首里那覇市中賣買相場平均ヲ
中旬マテ以テ算定ス
 一麥石代直段ニ二種アリ其一ハ普通直段其二ハ安
 直段是ナリ該直段ヲ定ルノ方法ハ每歲四月十一
 日ヨリ同三十日マテ舊曆三月初旬
ヨリ中旬マテ二十日間首里
 那覇市中賣買相場十日ツ、二區ニ平均シ其安直
 段ヲ以テ代受石代直段トシ高直段ヲ以テ普通石
 代直段トス
 一大豆石代直段モ又二種アリ該年十一月一日ヨ
リ同月廿日迄舊曆十月初旬ヨ
リ中旬マテ二十日間首里那覇市
 中賣買相場ヲ以テス其安直段高直段ノ取極方ハ

渾テ麥直段ニ同シ

一此他雜穀類ハ下大豆ノ相場ヲ基トシ之ニ前記雜穀ノ條ニ記載セシ品位ノ比例ヲ以テ本大豆白大豆白蔕豆小豆ノ石代相場ヲ算出ス但粟黍茶種子ハ皆現納然トモ事故有テ石代納ヲ願出ルトキハ時價則チ市中賣買平均相場ナリヲ以テ代納ヲ許可スル慣例ナリ

代糖納ノ事

是ハ收納ノ方法二種アリ其一ハ米粟若干ヲ以テ砂糖若干ニ換納シ其二ハ石代納スヘキ金若干ヲ以テ砂糖若干ニ換納ス蓋シ往昔ヨリノ慣行ナリ

其詳細左ノ如シ

一 中頭地方ノ内美里間切九个村ヲ除クノ外並ニ島尻地方一般ハ渾テ貢米ノ内起米三斗七升五合ヲ以テ砂糖百斤ニ換へ又國頭地方ノ内三間切及ヒ中頭地方ノ内美里間切九个村ハ米性宜カラサルノ故ヲ以テ起米四斗壹升六合六勺六撮六分ヲ以テ砂糖百斤ニ換納ス但シ何モ前々定納額アリ

一 伊江島及ヒ中頭地方ノ内讀谷山間切ハ貧村ノ故ヲ以テ前々ヨリ願ニ因リ貢粟ノ内各五拾石ツ、年限ヲ以テ代糖納ヲ許可シ起粟四斗壹合七勺八撮六分ヲ以テ砂糖百斤ニ換納ス買上糖額内ヨリ但現今

ハ明治十年ヨリ同十四年迄五ヶ年ノ年季中ナリ
一該代糖納アル村々前項石代納ノ條ニ掲載スル麥
下大豆トモ代受石代ト唱フル分砂糖百斤ニ付延
錢百八拾貫文ノ定價之ヲ通貨壹圓ニ付延錢千六
百貫文ヲ以テ算出シ金拾壹錢貳釐五毛ノ當ヲ以
テ換納仕來ル然ルニ明治十一年舊藩ニテ右延錢
ノ稱相廢シ隨テ砂糖ノ價格モ同年ヨリ前十ヶ年
間市中砂糖賣買相場ノ凡平均ヲ以テ更ニ百斤ニ
付銅錢百六拾貫文ト改定シ之ヲ通貨壹圓ニ付銅
錢五拾貫文ヲ以テ算出シ金三圓貳拾錢ノ割ヲ以
テ十一年分ヨリ換納セシム但此代糖ハ年々石代

直段ノ高下ニヨリ納額増減アルヘキ筈ノ處右ニ
拘ラス從來一間切毎ニ砂糖ノ納額アリテ該納額
徵收濟ノ後石代金員ニ照シ精算ノ上不足ハ現金
ヲ以テ取立過分ノ砂糖ハ現品ヲ下戻サスレテ前
記百斤ニ付金三圓貳拾錢ノ割ヲ以テ金員ニテ下
付スルノ慣行ナリ
一 中頭島尻兩地方ノ内北谷越來具志川高嶺ノ四个
間切ハ最モ貧村ナルヲ以テ舊藩廳ニテ手入場所
ト唱へ救助ノ典ヨリ買揚糖額ノ内年限ヲ以テ定
數時價買上ヲ許可セリ
一 右等ノ貢糖ハ渾テ納額皆納マテハ新糖賣買嚴禁

ハ明治十年ヨリ同十四年迄五ヶ年ノ年季中ナリ
一該代糖納アル村々前項石代納ノ條ニ掲載スル麥
下大豆トモ代受石代ト唱フル分砂糖百斤ニ付延
錢百八拾貫文ノ定價之ヲ通貨壹圓ニ付延錢千六
百貫文ヲ以テ算出シ金拾壹錢貳釐五毛ノ當ヲ以
テ換納仕來ル然ルニ明治十一年舊藩ニテ右延錢
ノ稱相廢シ隨テ砂糖ノ價格モ同年ヨリ前十ヶ年
間市中砂糖賣買相場ノ凡平均ヲ以テ更ニ百斤ニ
付銅錢百六拾貫文ト改定シ之ヲ通貨壹圓ニ付銅
錢五拾貫文ヲ以テ算出シ金三圓貳拾錢ノ割ヲ以
テ十一年分ヨリ換納セシム但此代糖ハ年々石代

直段ノ高下ニヨリ納額増減アルヘキ筈ノ處右ニ
拘ラス從來一間切毎ニ砂糖ノ納額アリテ該納額
徵收濟ノ後石代金員ニ照シ精算ノ上不足ハ現金
ヲ以テ取立過分ノ砂糖ハ現品ヲ下戻サスシテ前
記百斤ニ付金三圓貳拾錢ノ割ヲ以テ金員ニテ下
付スルノ慣行ナリ
一 中頭島尻兩地方ノ内北谷越來具志川高嶺ノ四个
間切ハ最モ貧村ナルヲ以テ舊藩廳ニテ手入場所
ト唱へ救助ノ典ヨリ買揚糖額ノ内年限ヲ以テ定
數時價買上ヲ許可セリ
一 右等ノ貢糖ハ渾テ納額皆納マテハ新糖賣買嚴禁

ニシテ完納セシ間切ヨリ漸々賣買ヲ許可スルノ慣行ナリ

段布納ノ事

是ハ八重山宮古ノ兩島ハ地租ノ條ニ記載セシ如ク租額中ニ白上中下布ノ三品アリテ右ノ内毎歲舊藩ヨリ白紺細上布及ヒ縮布木綿等ノ類品位段數ヲ極メ前年ヨリ之ヲ該島ニ注文シ以テ前記ノ三品ト換納セシム其方法白上布壹疋ニ付八重山ハ代起米七斗五升宮古ハ代起粟七斗白中布壹段八重山ハ代起米三斗壹升五合八勺宮古ハ代起粟貳斗九升四合七勺八撮白下布壹段八重山ハ代起

米貳斗五升宮古ハ代起粟貳斗ノ割ヲ以テ各代米粟額ヲ算定シ而シテ之ヲ換納セシム諸段布代米粟ノ合計ト差引過石ハ該島貢米粟ノ納額中ヨリ引去下戻シ不足ハ現米粟ヲ以テ徵收ス蓋シ右換納スル所ノ段布モ從來品位限り代米粟ノ定額アリ假令ハ其品位貳拾升紺地細上布壹升ト唱ルハ豎糸四十筋ハ壹段ニ付代米粟何程拾五升白細上布ハ壹段ニ付何程ト云フカ如ク各其代ヲ異ニス右ハ往昔ヨリノ慣例ニシテ段布納ノ起原年度等渾テ詳ナラス

一久米島紬ノ義元來該島貢額ハ從來米員ニシテ其

内ヨリ代米凡ソ八九百石程ハ毎歲舊藩ヨリ白紬
縞紬ノ内品位段數等相極メ前年ヨリ之ヲ注文シ
而シテ徵收ノ后該段布代米高ハ該年貢米額ノ内
ヨリ引去下渡スノ慣例ナリ但品等ニヨリ代米ノ
差違其他前條ニ同シ

代眞綿納ノ事

是ハ慶長間渡名喜栗國伊平屋ノ四島ヨリ相納ル
モノニシテ眞綿壹把此目方百目ニ付代起米粟共
貳斗五升ノ割ヲ以テ往古ヨリ貢米ニ換納仕來尤
慶長間島ハ眞綿五拾貳把八拾四匁渡名喜島ハ同
九拾六匁栗國島ハ同百拾三把拾五匁伊平屋島ハ

同貳百把何モ年々貢米額ノ内ヨリ換納仕來シニ
伊平屋島ハ漸々養蠶ノ業相進ム故ヲ以テ中古舊
藩ニ於テ換納ノ額ヲ三百把ニ改定セント云フ但
往古ノ起原詳ナラス
欠補雜穀及ヒ砂糖ノ事

是ハ往古ヨリ欠補トシテ米粟粟粃黍黍粃ノ五品
ヲ除キ其餘ノ貢納雜穀ノ内實際官庫ニ收入スル
分ハ起貳斗五升ニ付現升九升則チ壹石ニ付三斗
六升ツ、又直納ト唱ヘ官庫ニ收入セスシテ人民
ヨリ直ニ士族祿米ニ渡ス分ハ起貳斗五升ニ付現
升六升則チ壹石ニ付貳斗四升ツ、又伊江島ニ限

リ官庫納直納トモ渾テ起貳斗五升ニ付五升七合
則チ壹石ニ付貳斗貳升八合ツ、ノ割合ヲ以テ每
俵込石ノ上收納シ追テ舊藏役人ニ於テ藩廳ニ本
石精勘定ノ節實地過石ノ分ハ該藏役人ノ所得ト
仕來シト云フ

一欠補砂糖ハ渾テ枳目ヲ以テ砂糖ニ換ル分何斗何
升何合
ヲ以テ百斤ニハ樽ノ入實ヲ論セス一挺ニ付砂糖
換ルヲ云フ
五斤ツ、又石代金ヲ砂糖ニ換ル分金何圓何拾錢
ヲ以テ百斤ニ
換ルヲハ百斤ニ付五斤ノ割ヲ以テ本糖ト共ニ取
立ツ但其結果ハ前條ニ同シ

藏役人心附米穀ノ事

是ハ往古ヨリ藏役人心附トシテ米及ヒ雜石共渾
テ起貳斗五升ニ付現枳四升則チ壹石ニ付壹斗六
升ツ、又宮古島八重山島ニ限り起貳斗五升ニ付
貳升則チ壹石ニ付八升ツ、每俵込石ノ上收納ス
但其結果ハ前條欠補ニ同シ

俵入ノ事

是ハ米及ヒ雜穀ノ内其種類ト地方トニ因テ入實
ヲ異ニスルコト左ノ如シ
一貢米粟粟粃黍黍粃ノ五品ハ一俵入實三斗二升ニ
シテ内貳斗八升ハ本途斗立トモ四升ハ藏役人心
附ナリ

一宮古島八重山島貢米粟ニ限り一俵三斗入ニテ内
 貳斗八升ハ本途斗立トモ貳升ハ藏役人心附ナリ
 一雜穀ノ内粟粟粳黍黍粳ヲ除クノ外ハ一俵四斗壹
 升入ニシテ内貳斗八升ハ本途斗立トモ九升ハ欠
 補四升ハ藏役人心附ナリ
 一右雜穀ノ内直納其事由欠補ノ分ハ入實三斗八
 升ニシテ内貳斗八升ハ本途斗立トモ六升ハ欠補
 四升ハ藏役人心附ナリ
 一伊江島雜穀ニ限り入實三斗七升七合ニシテ内貳
 斗八升ハ本途斗立五升七合ハ欠補四升ハ藏役人
 心附ナリ

納期ノ事

中頭地方
島尻地方

米粟黍	九月三十日限	舊曆八月
麥	五月三十一日限	同四月
大豆、小豆、白蔴豆	十二月三十一日限	同十一月
茶種子	四月三十日限	同三月
國頭地方		
米粟黍	十一月三十日限	同十月
麥	七月三十一日限	同六月
茶種子	七月三十一日限	同六月
大豆、小豆、白蔴豆	翌年一月三十一日限	同十二月

右本島中其地方ニ依リ納期ノ異ナル所以ノモノ
ハ地ノ遠近運搬ノ便否土地季候等ニ因テ判定セ
シト云フ亦此他屬島ノ如キハ更ニ一定ノ期ナレ
然リト雖モ其米穀收穫ノ期節ニ至リ順風ヲ待テ
貢船ヲ發シ收入スルノ成規ナリ
一砂糖ハ翌年一月ヨリ五月迄舊曆十二月ヨリ翌年三月四月頃ニ至ル
皆納ノ例規ナリ

租稅未納處分ノ事

是ハ租稅金穀トモ納期ヲ怠ルアラハ嚴重督促シ
該納期後一个年ヲ過レハ本稅ニ二割半ノ利子相
掛ケ取立ル(假令ハ未納壹石ナラハ利子貳斗五升

ナリ)ノ規則ナリ然トモ中古以來納期ヲ愆リ或ハ
完納シ能ハスシテ官之ヲ實施セシ等ノコトナシ
ト云フ其故ハ未納者アレハ村吏ニ於テ實際取調
ヘ全ク本人ノ完納シ難キ分ハ該親類若クハ村中
間切中等ヨリ辨納スルノ慣行アレハナリ

雜稅ノ部

夫賃米ノ事

是ハ其濫觴詳ナラス
官古八重山兩島ノ人口ニ賦課シ一人ニ付起粟
八合四勺四撮五九八貳(此算法出處不詳)ヲ收入
スル方法ニシテ其人口ハ享保六辛丑年ノ調査

員額ニ據リ年々徴收シ來レトモ右兩島ハ絶海
 ノ孤島ニシテ米産ニ乏ク且現夫ヲ役スルコト
 能ハス故ニ夫賃米ノ稱呼アルモ粟ヲ以テ收入
 ス然トモ米納スルモノハ勿論年ノ凶歉ニ際會
 シ粟納方差支ノ時ハ納額半ニ至ルマテ麥下大
 豆木綿花同布菜種胡麻等ノ各種ヲ以テ勝手代
 納スルコトヲ許可シ又舊藩中ニハ毎歲兩島ニ
 段布牛皮等ノ諸雜種ヲ注文スル時ハ是又引合
 ヲ以テ差引精算スル慣行ニシテ其類目及ヒ引
 合セ相當額ハ兩島トモ規模帳ト唱フル例規帳
 ニ明記アリト雖モ今其梗概ヲ左ニ記ス

米壹石起	粟壹石起
胡麻壹石起	同
麥下大豆壹石ル	粟五斗ル
菜種子壹石	○六斗七升五合ル
木綿壹段	石當リハ地租同斷ニ付略ス
海鼠壹粒	粟七合五勺ル
牛皮壹斤	粟三升ル
海馬同	粟壹升五合ル
角俣同	粟五升三合貳勺五撮ル

納期本租同様收穫ノ期節ニ至リ順風ヲ待チ那覇
 港ヨリ船舶ヲ發シ收入スルノ慣行ナリ

夫役錢ノ事

是ハ其濫觴詳ナラス

舊藩政中三種ニ別チ人口ニ賦課スルモノハ寶曆十五酉年ニ調査スル所ノ各間切總人員中有位舊親雲上並ニ筑登之ヲ云フレカ人地頭代並ニ役人云フ並ニ男女十四歳以下五十一歳以上ヲ除キ爾來人員ノ増減ニ關セズ課シ來ル而シテ第一種ハ一ヶ月五度使ニテ公役ヲ勤ル者ノ外總テ一度使男ハ銅錢壹貫文此金貳錢徵收スルモノナリ然女ハ同五百文此金壹錢宛トモ實際徵收方ハ首里城ヨリ離隔ノ遠近如何ニ據リ分合ヒ之アリ即チ島尻地方及ヒ中頭ノ

中首里城ヨリ五里内ノ地ヲ除キ中頭ハ九分夫國頭ハ八分夫トシ其他各離島ニ至テハ五分夫迄等差之アリ而シテ十分夫ハ壹貫文九分夫ハ九百文收入ノ比例ナリ以下之ニ倣ヘ

其第二種ハ請地高壹石ニ付年銅錢壹貫文此金貳錢ヲ課スルモノナリ而シテ右兩夫役錢中ヨリ陰曆正月ニ至リ諸免夫即チ家祿知行ヲ有セ男夫二人一ヶ月五度使ノ免夫アリ又高拾石ニ付役知高ニ應シ前同斷ノ免夫アルノ類ヲ差引精算シ殘額ノ分ハ各間切ニ相預他日藩用買入糖同樽用材木竹等ノ諸需用ニ引當差引スルノ慣行ナリシニ置縣後之ヲ廢シ現金ヲ以テ收入ス

然トモ離島中金納ニ差問ルモノハ舊慣通筵等
ノ物品ヲ以テ代納スルヲ許ス
其第三種ハ領地夫役錢ニシテ舊藩政中各間切
ヲ領有セシモノハ總地頭ト唱へ年一回其領内
ノ夫ヲ實使又ハ夫錢ヲ徵收シ尙ホ此外村落ヲ
領有セシモノハ脇地頭ト唱へ年二回其領村ノ
夫ヲ實使或ハ夫錢ヲ徵收シ來リタル方法ニシ
テ前記二種夫役ノ外更ニ年三回領主ニ役セラ
ル、モノナリシニ置縣後ハ一切之ヲ廢シ縣廳
ニ收入ス
納期十二年分ハ舊慣ニ依リ追テ決定ノ積ナリ

船稅ノ事

是ハ其濫觴詳ナラス

舊藩政中帆賃ト唱へ來リ五段帆以上ノ段數ニ
賦課スル方法ニシテ一段ニ付月銅錢貳百八拾
壹文貳分五釐(五六二五)ヲ收入ス然トモ宮古八
重山ノ兩島ニ航行スル時ハ其月ヨリ歸港ノ月
迄除稅シ之ニ換ルニ航海一往復一段ニ付銅錢
九百三拾七文五分(此金壹錢九釐)ヲ課ス但首里
那覇久米泊ノ四个所居住者所有船ニ非サレハ
稅ヲ課セス蓋シ各間切ニ屬スル船舶ハ貢租運
搬用ニ供スル爲ナリ然トモ若シ宮古八重山兩

島ノ中ニ往復スル時ハ亦一段ニ付前文ノ稅額
ヲ課シ新造船ハ翌月ヨリ收稅シ解船破船ハ其
月ヨリ免稅ス右月稅翌月六日以上延納スルモ
ノ八月ニ其稅額百分ノ三利子ヲ徵收ス蓋シ船
稅ニ限リ延納利子ヲ追徵スル所以ハ常ニ諸港
ニ航行シ滯納者多ケレハナリ

燒酎稅ノ事

是ハ其濫觴詳ナラス
戶數ニ賦課シ月ニ收入スルノ方法ニシテ造石
高ニ關セス米粟燒酎釀造スル者一軒ニ付一个
納期十二年分ハ舊慣ニ據リ追テ決定ノ積ナリ

月銅錢百貫文(此金貳圓)黍燒酎釀造スル者一軒
ニ付一个月銅錢壹貫八百七拾五文(此金三錢八
釐)宛收入ス新ニ營業スル者ハ翌月ヨリ收稅シ
廢業スル者ハ其月ヨリ免稅ス
納期毎月廿五日限リ

浮得稅ノ事

濫觴詳ナラス但四種ノ收納アリ左ノ如シ
鹽

是ハ製鹽場ノ良否ニ據リ月稅年稅ノ區分アリ
月稅ハ鹽十俵壹升貳合九勺九撮(此算法出所不詳)
ニシテ閏月之アル年ハ一个月分相増シ年稅ハ

五十俵ナリ(是亦上同斷)一俵ハ總テ五升入ニシ
 テ計立ナリ又現納アリ石代納アリ壹石ニ付銅
 錢六拾貫文 此金三錢八釐昨十二年一月マテノ
 此金壹圓貳拾錢同年二月以降
 相場ヲ以テ收入スルノ例規ナリ蓋シ石代納ハ
 元貧乏者ニ限り年限ヲ以テ許可セシモノナリ
 ト云フ又鹽壹石相場ノ斯ク差違アルハ舊藩政
 中昨年二月ニ至リ延錢(銅錢)勘定ヲ廢シ銅錢ト
 シ從テ最前賦課ノ雜稅延錢壹貫文ハ直ニ銅錢
 壹貫文ニ引直セシヨリ寬苛隔絶スルコト此ノ
 如シ然ト雖モ舊藩所用ノ雜物ハ各間切ニ賦課
 シ定價ヲ以テ上納セシメ諸雜稅錢ヲ以テ差引

レ實際官庫ヨリ拂出サ、ルノ慣行ナリシ故今
 之ヲ廢セシモ人民ノ疾苦不影響ノミナラヌ返
 テ益スル處多シトス雜稅中月稅ノ分右同斷但
 延錢三拾貳文相當銅錢壹文延錢壹貫六百
 文相當金壹釐當銅錢五拾文相當金壹釐 現鹽
 納ノ分モ現品不足シテ代金納ヲ願出ルトキハ
 時價平均相場ヲ以テ代納ヲ許ス納期月稅ハ其
 月限り年稅ハ十二月限り

綿子(眞綿)

是ハ桑木一本ニ付年ニ綿子目方三匁三分ヲ課
 セシ方法ニシテ其後桑木ノ増減ニ關セス定手
 形帳ニ記載ノ數額ヲ以テ收入シ來リ又米ヲ以

テ代納スルモノハ壹把(百目)ニ付米計立貳斗八升ノ引合ニテ收入スル例規ナリ但綿子ノ産處ハ久米伊平屋慶良間渡名喜島粟國島等ニ限レリ納期十二月限リ

棕櫚繩

是ハ棕櫚木壹本ニ付年ニ棕櫚皮拾貳枚ヲ賦課シ又閏年ニハ一个月ヲ増加セシ方法ニシテ其後木數ノ増減ニ係ハラズ定手形帳面ニ記載ノ定數ニ據ル而シテ舊藩政中船手方ノ需用次第繩トナシ收入セシヨリ因襲シテ終ニ年々繩ニテ納入スルニ至ル又久高島ハ舊藩船方相勤シ

ヲ以テ上納棕櫚繩高七拾五斤壹合貳勺八撮免除シ又米ヲ以テ代納スルモノハ代米壹石ニ付銅錢四百七拾九貫八百七拾貳文ノ相場ヲ以テ壹斤ノ相場銅錢七貫貳百貳拾五文ヲ除セハ則チ代米ノ石數ヲ得現品不足ニテ代金納ヲ願出ルトキハ時價平均相場ヲ製シ納ヲ許可セシ慣例ナリ納期十二月限リ

金

是ハ雜物ニ賦課セシ者ニテ茲ニ其例ヲ掲ケハ九年母木壹本ニ付年ニ銅錢五百文(此金壹錢)橙木壹本ニ付銅錢貳百五拾文(此金五釐)綱壹キタ

(壹張ナリ)五百五拾文(此金壹錢壹釐)練船一艘壹貫文(此金貳錢)徵收スルノ方法ニシテ其後員數ノ増減ニ關セス定手形帳面通り收入シ來ル納期前同斷

硫磺納ノ事

是ハ鳥島那霸港ヨリ西北ノ方八十七里許ニ産之アリ鹿兒島縣下徳ノ島ニ近シ生スルモノナリ舊藩政中清國ニ貢棒ノ爲メ往古ハ船舶並ニ礦夫ヲ送り採取セシ處追年移住人ノアリ然トモ五穀之ナキ磯嶼ノ孤島ニ付救助トシテ年々麥百五拾石粟粃百五拾石合計三百石官船ヲ以テ回漕シ之ヲ換ルニ硫磺壹萬五千斤ヲ上納

セシメ歸港ノ上泊村ニ於テ更ニ精製シ貢物ノ用ニ供セリ而シテ又右ニ係ル經費ハ一切官ヨリ支給シ來リシニ清國貢船廢絶以後尙ホ十一年分マテ收入シ來リ置縣ノ節引繼ニ相成居レリ十二年分ヨリ暫ク之ヲ雜稅中ニ組入レ置ク納期夏季救助穀ヲ廻漕シ秋季硫磺ヲ摻載歸港スルノ慣行ナリ

北海道諸稅

〔按〕本道ハ曩時蝦夷ト稱シ其地曠漠ニシテ民人耕作ニ從事セス唯沿海漁業ノ利ヲ追フ獨リ今ノ渡島國舊松前藩領諸事概テ内地ノ制ニ異ラサルノミ雜新ニ及テ夙ニ開拓殖産ノ議アリ明

治二年開拓使ヲ置キ改テ北海道ト稱シ新ニ國郡ヲ建テ專ラ興業ヲ獎勵ス故ニ海産稅出港稅等ノ外諸稅内地ト一般之ヲ施行スルモ亦概チ酒類ノ釀造稅等ハ内地時々ノ制ニ從ヒ營業稅ハ八年ノ率ヲ以テ十三年ヨリ收入シ鑛山稅ヲ營業月數ニ賦課シ根室廳下ニ車稅ヲ收人セサル所ナリ且札幌函館根室三廳管下之ヲ施行異ル各遲速アリ札幌函館ハ其賦課スルノ施行ルニ從テ成規ニ依レリ因テ特ニ本道ニ限ル法ノ梗概ヲ掲ケ餘ハ之ヲ省略ス而シテ其達令本ト三廳ノ別アリ今一

地租

〔按〕本道ノ土地ハ開墾ヲ以テ要務トス故ニ使應設置以來農具ヲ賜ヒ米鹽ヲ給シ以テ之ヲ勸誘ス乃チ開墾地收稅規則ヲ設ケ尋テ地所規則ヲ定メ期限ヲ緩シテ其租ヲ除キ低價ヲ以テ開墾地ノ賣與スル等追次之カ制ヲ立テ九年ニ至リ全道一般ノ租率ヲ定テ地價百分ノ一ト爲セリ而

シテ函館及ヒ其近傍ノ如キハ九年以前漸次其舊制ヲ修正シテ畧ホ府縣ニ同シ故ニ別ニ之ヲ錄載セス

〔今上天皇明治三年十一月二十日開拓使布達〕東地移住ノ人民新ニ田畑ヲ開墾スルモノハ壹段ニ金貳兩ヲ下賜スヘシ但漁業ノ傍ラ開墾スルモノハ之ヲ下賜セス

開墾初年ヨリ七今年免租タルヘシ

〔五年四月開拓使達〕北海道開墾地收稅規則ヲ定ルコト左ノ如シ

上ノ地ハ一町歩ニ稅金五圓中ノ地ハ一町歩ニ稅金四圓下ノ地ハ一町歩ニ稅金三圓トス但三千坪ヲ以

テ一町歩ト爲シ一町歩以下モ此例ヲ以テ收税スヘシ
移住農夫ニシテ三年間ノ扶助ヲ受ル者ハ開墾作附
初年ヨリ五個年間免税シ六個年ヨリ十個年間ハ上
中下ノ地位ニ應シ其地税ノ十分一トシ十一个年ヨ
リ全額ヲ收税スヘシ
官員其他自今自費ヲ以テ開墾スル者ハ作附初年ヨ
リ三十年間免税シ三十一个年ヨリ其全額ヲ收税ス
ヘシ但既ニ自費ヲ以テ開墾スル者ハ今年ヨリ之ニ
准ス
地税ノ外ハ雜税等更ニ收入セサルヘシ

地税ハ金納ニ限ラス其作物ヲ以テ上納セシムルモ
妨ケナシ但作物ハ其地ノ賣買價直ヲ以テ收入スヘ
シ
函館及ヒ其近傍ノ如キ税則既ニ定ルモノハ此限ニ
アラス
〔九月二十日布告〕北海道地所規則ヲ定ルコト左ノ如
シ
永住ノモノ居屋漁舍倉庫敷地或ハ社寺及ヒ墾成セ
シ從來ノ拜借地等自今經界畝數ヲ改正シ永ク私有
地ト爲シ地券ヲ下付シ本年ヨリ七年間除租タルヘ
シ

寄留人拜借地タリトモ既ニ開墾營構等ヲ爲スモノ
ハ其私有地ト爲シ地券ヲ下付シ除租前條ニ准スヘ
シ
漁濱昆布場モ永住人ハ私有地寄留人ハ拜借地タル
ヘシ但私有地拜借地トモ本年ヨリ五年間除租スヘ
シ
從來拜借地ヲ他人ニ貸付シ其借主既ニ家倉營構等
ヲ爲スモノハ寄留人タリトモ借主ノ私有地タルヘ
シ
拜借地既ニ家倉ヲ營構シ其後他人ニ貸付スルモノ
ハ貸主ノ私有地タルヘシ

永住人寄留人トモ從來ノ拜借地ハ地券ヲ下付ス其
下與シテ私有地ト爲スモノハ地代金ヲ上納スルニ
及ハス
山林川澤從來土人等漁獵伐木スル地ハ更ニ區分シ
テ所有主ヲ定メ或ハ村請ト爲シ地券ヲ下付シテ十
五年間除租シ地代ハ前條ニ准ス但深山幽谷等ノ地
ハ此限ニアラス
原野山林等一切ノ土地官屬及ヒ從前拜借ノモノ目
下私有タラシムル地ヲ除クノ外都テ賣下ケ地券ヲ
下付シ永ク私有地ト爲サシムヘシ
賣下ノ地一人十萬坪ヲ以テ限トシ著手ノ後十個年

除租タルヘシ但己ニ私有スル地ヲ賣買スルモノハ
其坪數ニ制限ナカルヘシ
賣下ノ地價ハ上等千坪壹圓五拾錢中等壹圓下等五
拾錢トス千坪以下此例ヲ以テスヘシ但其地代ハ即
納タルヘシト雖モ家産中人以下或ハ罹災窮乏ノ者
ハ三年乃至五年賦ヲ以テ上納セシムルコトアルヘ
シ
既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾其他一切ノ産業ハ
勿論之ヲ他人ニ賣却スルモ其所有主ノ自由タルヘ
シ
私有ノ土地ト雖モ外國人ニ賣リ或ハ之ヲ抵當トシ

テ金ヲ借ル等ハ之ヲ禁ス
買下ノ後上ノ地ハ十二个月中ノ地ハ十五个月下ノ
地ハ二十个月ヲ過キ開墾等ニ著手セサル者ハ上地
セシムヘシ
官費募移ノ者開墾地ハ其墾成ノ年ヨリ五年間除租
シ其後二年間ハ租額十分ノ一爾後ハ全額ヲ納メシ
ムヘシ
從來永住ノ者及ヒ募移ノ者一家ノ資力ヲ以テ本年
ヨリ三ヶ年間ニ開墾スル土地ハ年々墾成ノ分ヲ點
檢シテ地券ヲ下付ス地代金ハ上納スルニ及ハス但
自今募移ノ農夫モ移著ノ後三ヶ年間ハ之ニ准スヘ

除租滿期後ノ制程ハ他日其地ノ差等ニヨリ適當ニ
査定スヘシ
採鑛漁獵等都テ生産興工ノ目途アリテ之ヲ出願ス
ルモノハ其方法ヲ調査シ年限ヲ定テ貸地ト爲シ稅
則ハ他日出品ノ精粗多寡等ニ隨ヒ適當ニ査定スヘ
シ
右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シ
テ國家人民ノ利ヲ興シタル者ハ其功業ノ大小輕重
ニ因リ若干ノ土地ヲ付與シ或ハ專賣除租ノ榮利ヲ
與フル等ノ處置アルヘシ

函館及ヒ其近傍ノ如キ既ニ稅則定リタル地ハ此限
ニアラス

〔按〕是歲十月土地賣貸規則ヲ布告シテ曰ク北海
道開拓創業以來募移自移ノ徒日月ニ増加シ今
日ニ至テハ運漕行旅モ不便トモセ然ルニ肥沃
多産ニシテ農粟スルモノ猶十ノ八九ニ居レリ
因テ全道開墾ノ地低價ヲ以テ賣下シ緩期除租
等ノ規則ヲ施行セシム志願者ハ開拓使ニ稟請
セヨト其條節之ヲ詳ニス又是ヨリ先キ既ニ施
行スルモノアレトモ事此ニ盡セルヲ以テ併テ
之ヲ略ス蓋シ地所規則ノ布告ハ本道ニ止ル
雖モ土地賣貸規則ハ府縣ニ布告シテ以テ移
獎勵スルナリ又八年ニ至リ開拓使家祿奉還者
ノ産業ヲ營ムニ地所ヲ買ハント願フ者ハ定價
ノ半額ヲ以テ之ニ二十年間除

〔九年十二月廿八日布告〕北海道地租暫ク地價百分ノ
一ニ定ム

〔按開拓使建議ノ略ニ曰ク明治五年布告北海道地所規則中除租滿期後ノ制程ハ他日定ムヘシト而シテ漁濱昆布場ノ如キ本年滿期ノ地ニ賦課スルハ地租改正ノ條規ニ循フヘシト雖モ本道ハ府縣ト異ナリ從來貢租ノ制ナク且開拓施行中專ラ民業ヲ勸誘シ戸口繁殖ヲ目下ノ要務ト爲ス遽然府縣同軌ノ制ニ循ヒ難キ情狀有ルヲ以テ地租創定ノ大要ハ一般改正ノ旨趣ニ則リ其節目ニ至テハ適宜之ヲ處分シテ地券ヲ發行シ租率ハ姑ク地價百分之一ヲ以テ明治十年ヨリ收入シ其他地所規則中各種ノ地所ハ除租滿期ノ翌年ヨリ是租率ト爲シ開拓進歩ノ度ニ隨ヒ漸次整理ヲ遂ニ一般ノ成規ニ適合セシメント乃チ裁可此布告アリ

〔十年十二月十三日開拓使布達〕北海道地租ノ布告アリシニヨリ土地ヲ丈量シ地價ヲ査定シテ一般地券ヲ發行シ地所規則除租ノ年限ニ隨テ地租ヲ課シ從前發行スル地券ハ之ヲ改メ且既ニ課收スル地租モ

自今總テ地價百分ノ一タルヘシ

地所ハ其種類ヲ分テ宅地耕地海産乾場山林牧場トス但地所規則ニ掲載スル漁濱昆布場ハ自今海産乾場ト改稱スヘシ

耕地宅地ハ何人ニ拘ラス之ヲ所有セシメ海産乾場ハ海産採取ノ業ヲ營ムモノニ非サレハ所有セシメス山林川澤原野河岸海岸等ハ總テ官有地トシ其支障ナキ場所ハ貸付或ハ賣下ス但官有地ヲ貸付スルトキハ貸地證書ヲ付與シ貸地料トシテ地價百分ノ一ヲ收入スヘシ
租額ハ歲ノ豐歉等ニ因テ之ヲ變更スルコト無シト

雖モ天災地變ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ減租或ハ除租等ノ處分ヲ爲スヘシ
收租地ノ地券ハ新規下付並ニ賣買ニヨリ書換ノ時券面ノ地價ニ隨ヒ一枚コトニ證印稅ヲ收入ス

地價 印稅

- 貳圓マテ 金八釐
- 貳圓以上百圓マテ 金壹錢五釐
- 百圓以上貳百圓マテ 金拾五錢
- 貳百圓以上五百圓マテ 金三拾三錢
- 五百圓以上千圓マテ 金四拾錢
- 千圓以上貳千圓マテ 金五拾錢

貳千圓以上五千圓マテ 金八拾三錢
五千圓以上 金壹圓貳拾五錢

除租地ノ券狀ハ新規下付並ニ賣買讓渡等ニヨリ書換ヲ爲スモノ及ヒ收租地ノ代替授與水火盜難等ニテ書換ノトキハ證印稅トシテ一枚コトニ金八釐ヲ收メ貸地證書ハ新規下付並ニ書換ノトキ手数料トシテ金八釐ヲ收ムヘシ

〔十二年十二月廿四日開拓使建議〕管内各種地租改正及ヒ創定ノ事業漸ク整頓ニ就ク因テ明治十年七月布告地租徵收期限ニ照シ徵收セサルヲ得スト雖モ北海道田畑ハ其登熟收穫ノ期他道ニ例視シ難ク且

海産乾場ノ如キハ其産物ノ種類ニ依リ取獲期節ヲ異ニシ殊ニ新移薄弱ノ人民多キヲ以テ一般ノ制度ニ循ヒ難キ情實有リ既ニ地稅ヲ百分ノ一ト定メラレシ地方ナルニヨリ徵收期限ハ收穫ノ期節ニ應シ全道一般地稅ハ翌年五月三十一日ヲ以テ終期トシ其間ニ於テ適宜ニ收入セン

〔按是レ十三年一月裁可アリシ所ナリ〕

海産稅

〔按本道ノ産物漁利ヲ以テ大ナリトス其收稅ノ額亦之ニ過ルモノナシ明治二年使廳設置以來漁業ヲ勸奨スルニ米鹽漁具ヲ給與シ或ハ資金ヲ貸付スル等ノ法ヲ以テス而シテ其課稅ノ法

ハ舊時漁場ヲ商人ニ貸與シ請負金ヲ上納セシメタル習慣ヲ廢シ漸次改良シ漁獲ノ額ト品種ノ別トニ隨テ現品ヲ收入スルノ稅率ヲ處定セリ

〔今上天皇明治三年正月開拓使布達〕漁場請負支配廢止ニヨリ漁稅ハ暫ク五分一現品ヲ以テ納ムヘシ

〔四月朔日開拓使達〕今般特別ノ詮議ヲ以テ諸稅ノ收入從前ノ如クタルヘシ因テ出石高ヲ精密ニ調査シ現品ヲ以テ其地役所ニ納メシムヘシ萬一濱方ニ於テ不正アルトキハ嚴重ニ處置スヘシ

〔按是レ舊ノ五分一收稅ヲ止メ舊請負人各自ノ習慣ニ仍ルナリ故ニ稅率各郡異同アリ〕

〔三日開拓使達〕根室國根室花咲二郡從前ノ運上金ヲ廢シ步役トシテ絞粕鹽切ハ二割昆布ハ三割ヲ收入

スヘシ但總テ内割タルヘシ

〔十月開拓使建議〕西地ノ諸郡ハ人民蕃殖漁獵利多キヲ以テ二割ヲ收稅セン東地ノ諸郡ハ人煙稀少物産多カラサルヲ以テ暫ク便宜ニ處置シ漸次民口ノ繁殖スルニ從テ西地ニ比較收稅シ北見國モ同一處置セン

〔按〕是レ裁可ヲ得テ施行スル所ナリ今其稅則ノ項ヲ節錄ス

〔十一月二十日開拓使布達〕東地移住人民ノ產物稅左ノ如ク明年ヨリ施行スヘシ

- 一 昆布 三割
- 一 布海苔 二割

一 絞粕 一割

一 鹽切鮭 二割

一 鹽切鱈 二割

一 煎海鼠 買上仕法

右現品ヲ以テ上納スヘシ

諸產物取獲特ニ少キトキハ減稅スルコトアルヘシ
〔四年二月開拓使達〕石狩國札幌郡鮭鱈等ノ漁業ハ免稅タルヘシ

〔三月開拓使達〕根室國野付郡ノ漁稅ハ左ノ如ク函館ノ時價ヲ以テ十月中ニ金納スヘシ

一 鮭絞粕 外一割五分

一 鹽切鮓

外一割

一 鹽切鮓

外一割五分

〔五年正月開拓使達〕天鹽國增毛留萌苦前ノ三郡及ヒ
屬島天賣燒尻ノ漁稅ハ松前函館兩港ノ時價ヲ以テ
春漁ハ七月中夏秋漁ハ十月中左ノ如ク金納スヘシ
新開場ハ其年ヨリ三年間五分稅ヲ納ムヘシ

一 鮓絞粕

一割

一 羽鮓

一割五分

一 身欠鮓

一割五分

一 鹽鮓

二割

一 昆布

一割五分

一 細布

一割五分

一 海鼠

一割

一 鮓

一割

一 鱈

一割五分

一 鮓

一割五分

一 鮓鹽切

二割

〔同月開拓使達〕釧路千島ノ二國及ヒ北見國四郡漁稅
左ノ如ク定ム但北見千島ノ内新開場ハ本年ヨリ三
年間免稅スヘシ

釧路國

一 絞粕

外一割五分

一 昆布

外二割

一 鹽切物

外一割

一 魚油

外一割

千島國及ヒ北見國四郡

一 絞粕

外一割

一 昆布

外一割

一 鹽切物

外一割

右函館港ノ時價ヲ以テ金納スヘシ

納期春漁ハ七月中旬夏秋漁ハ十月上旬ヲ限トス

〔三月五日開拓使達〕釧路國稅則定免ノ法左ノ如ク定

メ本年ヨリ三年間外二割收稅スヘシ

一 上濱昆布船一艘

七拾石

一 中濱昆布船一艘

六拾石

一 下濱昆布船一艘

五拾石

一 新開場昆布船一艘

四拾石

但格外失費ヲ要スル分ハ初年三拾石二年ヨ
リ五拾石トス

〔六年六月廿八日開拓使布達〕渡島國福嶋津輕檜山爾
志ノ四郡海産稅ハ自今總テ一割タルヘシ

〔七月開拓使達〕北見國紋別以東四郡ノ出產物定免ノ
法ヲ設ク從來ノ一割稅ハ特旨ヲ以テ左ノ如ク平均
出石高ヲ定メ明年ヨリ三年間松前港ノ時價ヲ以テ

大日本國志 卷之四十五 三十一

納稅スヘシ但新開ノ漁場ハ明年ヨリ春夏秋ノ三漁
トモ三年間出石高ヲ百石ニ定ム

紋別郡

- 一 鮭 貳千石
- 一 鮭 七百石
- 一 煎海鼠 五石
- 一 鱒 七拾石
- 一 昆布 三拾石
- 常呂郡 三拾石
- 一 鱒 貳百五拾石
- 一 鮭

網走郡

- 一 鮭 百三拾石
- 一 鮭 五百五拾石
- 一 鱒 百五拾石
- 一 鮭 千百五拾石
- 斜里郡 百石
- 一 鮭 百石
- 一 鱒 三百石
- 一 鮭 百五拾石

〔七年八月九日開拓使達〕釧路根室兩國從來ノ稅法ヲ
改メ現品ヲ以テ收稅スヘシ

納税スヘシ但新開ノ漁場ハ明年ヨリ春夏秋ノ三漁
トモ三年間出石高ヲ百石ニ定ム

紋別郡

- 一 鮭 貳千石
- 一 鮭 七百石
- 一 煎海鼠 五石
- 一 鱒 七拾石
- 一 昆布 三拾石
- 常呂郡 三拾石
- 一 鱒 三拾石
- 一 鮭 貳百五拾石

網走郡

- 一 鮭 百三拾石
- 一 鮭 五百五拾石
- 一 鱒 百五拾石
- 一 鮭 千百五拾石
- 斜里郡 百石
- 一 鮭 百石
- 一 鱒 三百石
- 一 鮭 百五拾石

〔七年八月九日開拓使達〕釧路根室兩國從來ノ税法ヲ
改メ現品ヲ以テ收税スヘシ

〔十月開拓使達〕根室國根室花咲兩郡ノ鮭絞粕昆布鮭
ハ明年ヨリ鮭ハ本年ヨリ左ノ如ク現品ヲ以テ收稅
スヘシ

一 鮭絞粕 内一割五分

但他ノ絞粕モ之ニ同シ

一 昆布 内二割

一 鹽切鱈 内一割

一 鹽切鮭 内一割五分

〔十二月十二日開拓使^{府縣}布達〕北海道各所ニ於テ漁
場並ニ昆布場自費ヲ以テ新開スルモノハ自今其年
ヨリ五年間免稅シ各所開業ノ難易所獲ノ多寡ヲ審

査シ隣地ノ比較ヲ以テ第六年ヨリ相當收稅スヘシ
〔八年五月十五日開拓使達〕日高國海產稅明治六年以
來定免ヲ以テ收入スレトモ年々海產ノ豐凶ニヨリ
實際上納難澁タルノ聞エアリ因テ自今之ヲ廢シ本
年ヨリ從前ノ稅則ヲ以テ其出產額ニ應シ現品ヲ收
入シ昆布ハ二割稅ニ改正スヘシ
〔十年五月七日開拓使達〕北見國斜里網走常呂紋別ノ
四郡海產稅本年ヨリ左ノ如ク現品ヲ以テ收入スヘ
シ

一 鮭絞粕 内一割

一 魚油 内一割

一 鹽切鱈	內一割
一 昆布	內一割
一 煎海鼠	內一割
一 鹽切鮭	內一割
〔同日開拓使達〕根室國海產稅本年ヨリ左ノ如ク現品ヲ以テ收入スヘシ	
一 鮭絞粕	內一割五分
一 魚油	內一割
一 鹽切鱈	內一割
一 昆布	內一割
一 鹽切鮭	內一割五分

〔同日開拓使達〕釧路國海產稅本年ヨリ左ノ如ク現品ヲ以テ收入スヘシ	
一 鮭絞粕	內一割五分
一 魚油	內一割
一 昆布	內二割
一 鹽切鮭	內一割五分
〔同日開拓使達〕千島國樺捉振別紗那葉取ノ四郡海產稅本年ヨリ左ノ如ク現品ヲ以テ收入スヘシ	
一 鱈	內一割
一 鮭絞粕	內一割
一 魚油	內一割

一 鹽切鱈	内一割
一 鱈絞粕	内一割
一 鹽切鮭	内一割
一 昆布	内一割

〔按〕同日國後郡海産品税額ノ達アリ皆異ナル所ナシ唯鱈ノ一品ヲ欠クノヨリ因テ之ヲ畧ス

〔九月十三日開拓使達〕十勝國海産税従前ノ定金納ヲ廢シ本年ヨリ左ノ如ク現品ヲ以テ收入スヘシ

一 鮭	一割
一 鱈	一割
一 昆布	一割五分
一 鰯絞粕	一割五分

一 布海苔	一割五分
一 魚油	一割五分

〔十一年四月十八日開拓使布達〕根室支廳管下拾ヒ昆布煎海鼠布海苔ノ三品従前免税タレトモ本年五月ヨリ左ノ如ク收税スヘシ

一 拾ヒ昆布	二割
一 煎海鼠	一割
一 布海苔	一割

〔十九日開拓使布達〕函館支廳管下各郡海産物ノ内従前無税並ニ定税金納等本年一月ヨリ左ノ如ク更正シ都テ現品ヲ以テ收税スヘシ

渡島國龜田上磯二郡

一生餅

一割

渡島國茅部上磯檜山爾志四郡後志國久遠奧尻二郡

一蟹

二割

一紬

二割

渡島國龜田茅部上磯三郡後志國島牧郡

一昆布

二割

渡島國龜田上磯二郡膽振國山越郡後志國久遠奧尻

瀨棚島牧壽都歌棄磯谷七郡

一煎海鼠

二割

後志國久遠奧尻太櫓瀨棚島牧壽都歌棄磯谷八郡

一乾鮓

二割

渡島國龜田茅部上磯福島檜山津輕爾志七郡

一鮭

二割

後志國奧尻郡

一帆立貝

二割

渡島國上磯郡後志國久遠島牧二郡

一帆立身

二割

渡島國上磯郡後志國久遠奧尻二郡

一錫

二割

渡島國上磯福島檜山津輕爾志五郡膽振國山越郡

一鱒

一割五分

渡島國龜田上磯檜山爾志四郡

一 罽紋粕 一割五分

津輕福島茅部三郡

一 罽 一割五分

津輕福島二郡

一 罽 一割五分

檜山爾志二郡

一 雜魚絞粕 一割五分

龜田上磯二郡

一 若和布 一割

〔按〕開拓使建議ノ界ニ曰ク函館支廳管内各郡海産物ノ内從來定稅金納成ハ現品徵收等區々ニ

涉リ且從前取獲鮮少ナルヲ以テ無稅ニシテ營業ヲ許セシモノモ逐次取獲増殖スルヲ以テ隣接諸郡現品稅ノ比較ヲ取リ或ハ該品取獲ノ多寡ヲ斟酌シ本年ヨリ總テ現品稅ニ改正セント裁可ヲ經テ此ヲ布達セリ

〔十月廿四日開拓使布達〕函館支廳管下各郡海産物稅則中左ノ如ク増補シ本年ヨリ課稅スヘシ

渡島國龜田上磯二郡

一 罽紋粕 一割

龜田茅部二郡

一 罽 一割五分

渡島國茅部郡後志國太櫓郡

一 煎海鼠 二割

渡島國 龜田上磯二郡

一 雜魚絞粕 五分

龜田郡

一 紮 二割

一 鱒 一割五分

一 鱒 二割

茅部郡

一 鮭 一割五分

後志國 奥尻郡

一 帆立身 二割

〔十二年五月十九日開拓使達〕根室支廳管下有稅海産

物ノ内拾ヒ魚等ヨリ製造スルモノモ同一ノ割稅ヲ
收入スヘシ

〔十三年一月十二日開拓使布達〕根室支廳管下産物中
牡蠣及ヒ帆立貝ノ二種従前無稅タレトモ本年ヨリ
更ニ製造品ノ一割現品ヲ以テ課稅スヘシ

〔九月三十日開拓使布達〕根室支廳管下海産物ノ内産
地ニ於テ鮮魚ヲ以テ販賣スルモノハ現品稅ノ例ヲ
以テ其代價ノ一割若クハ一割五分ヲ收稅スヘシ

出港稅

〔按〕本稅ハ明治八年制定スル所ニシテ北海道
産ノ輸出貨ヲ照檢課稅シ以テ本道堤防道路修築

等ノ民費ヲ補助スルモナリ其由テ來ル所ハ
 曩時漁場受負人ヲ命スルカ爲メ來去ノ船所
 シテ函館松前ノ兩港ニ入船セシメ入荷役石役
 面役等ヲ收入スルニ始ル開拓使建置ノ時海官
 所ヲ函館幌泉壽都手官ノ四港ニ置テ貨物ノ出
 入ニ課税ス其率輸入ヲ原價ノ一分五釐輸出
 六分ト爲ス三年之ヲ減シテ積高ノ四分ヲ除キ
 殘額ニ課シ輸入ヲ一分五釐輸出ヲ四分ト爲ス
 而シテ五年物産勸獎ノ爲メ一切之ヲ廢シ以テ
 八年ニ至レリ乃チ始テ出港ノ貨物ノミニ課税
 シ原價百分ノ四ト爲セリ今二年以來ノ出入ニ
 係ルモノ及ヒ之ニ屬スル役錢等ヲ併テ之ヲ錄
 ス

〔今上天皇明治二年九月十七日達〕從來松前港ニ於テ
 收入スル西蝦夷地船運上ヲ廢シ自今函館幌泉壽都
 手官ノ四所ニ於テ軍艦ヲ除クノ外運上ヲ收入スヘ
 シ

〔十二月開拓使達〕函館幌泉壽都手官海官所規則左ノ
 如ク定ム
 輸入ノ諸品ハ其時價原額ノ一分五釐ヲ收税スヘシ
 但時價ハ毎月三回之ヲ查定ス
 北海道ノ産物ハ善惡其場所分ケテ以テ上中下ヲ定
 メ三ヶ年平均時價原額ノ六分ヲ税額トシ出入コト
 ニ半額ツ、收入スヘシ但鮭鱈鱒生餅ニ限り渡嶋
 國有川村等ヨリ東京其他ニ直帆ヲ願フトキハ税金
 ヲ一時ニ收入シ且北海道ノ内遠地ニ積載ノ爲メ廻
 船シ其地ヨリ直帆ヲ願フトキハ其船ノ間尺ヲ檢ス
 ルニ際シ積高ニ應シテ收税スヘシ

諸船間尺ノ數ニ九四ヲ乘シ且枉替引ノ用捨ヲ爲シ
又積高ノ二割ヲ減シ其代金額ヨリ又一割ヲ減シ收
稅セシ舊法ヲ廢シ向後間尺適合ノ積荷高ヨリ二割
ヲ減シ收稅スヘシ
諸船判賃ト唱ヘ銀壹匁收入セシ舊法ヲ廢シ常燈料
トシテ永五拾文ヲ收入スヘシ
諸廻船面役ハ乗組一人ヨリ永三百七拾五文ヲ收入
スヘシ
諸廻船石役從前米壹升ノ代銀錢六拾文ノ比例タレ
トモ更ニ近年ノ米價三今年平均額ヨリ三割ヲ減シ
テ其員數ヲ定ムヘシ

通船ト唱ヘテ四港ノ内ニ風待滯船スルトキハ帆形
役トシテ帆布一段ニ永貳拾五文ヲ收入スヘシ但滯
船五日以上ハ半面役又圍船ヲ爲シ翌春出帆スルモ
ノハ本面役ヲ收入スヘシ
鮮取船役金ハ乗組定員ニ應シ一人ニ金壹分貳朱ヲ
收入スヘシ但其漁船ヲ漁場ニ圍置キ翌春中遣船大
中遣船等ニ乗組ムトキ中遣船ハ永五百文大中遣船
ハ半石役ヲ收入スヘシ
合船修覆船ノ役金ハ從前定額ノ一倍増ヲ以テ收入
スヘシ
軍艦ヲ除クノ外ハ都テ定額ノ港稅ヲ收入スヘシ又

官船官雇船トモ北海道ニ關係ノ賣品ヲ積載スルト
キハ四港ノ内ニ出入セシメ荷物税ヲ收入スヘシ
北海道國內諸藩支配地ノ産物並ニ同所ニ廻漕スル
モノ諸藩雇船ハ勿論手船ヲ以テ廻漕スルトモ必ス
四港ノ内ニ入船シ諸廻船ニ同ク收税スヘシ但支配
地ヨリ鮭ヲ積載シ他ニ出航スルトキハ豫メ四港ノ
内其近傍ノ港ニテ積船ノ間尺ヲ檢シ定額ノ税ヲ收
入スヘシ
商人等外國船ヲ雇ヒ函館ニ廻漕スル荷物並ニ外國
船ニ積載シテ外國ニ輸送スル諸荷物トモ噸數ヲ石
高ニ換算シ其荷主ヨリ定額ノ税ヲ收入スヘシ

北海道産物ヲ港内ニ於テ外國人ニ賣ルハ輸出品ニ
同ク賣主ヨリ定税ノ半額ヲ收入スヘシ
諸家ノ荷物及ヒ神佛具ハ免税スヘシ
壽都手宮幌泉ノ三港ニ於テ其地ノ産物ヲ積取ル船
從來直ニ出帆スレトモ右ハ入港ノ税無キニヨリ出
帆ノトキ定税ノ全額ヲ收入スヘシ
北海道國內ヨリ産物ヲ積取ル船ニテ四港ノ内ニ入
ラスレテ直ニ他國ニ廻漕スルトキハ定税ノ七倍或
ハ十倍増ヲ以テ收入スヘシ但擇捉ノ産物ヲ積取ル
船ハ年々兩度差遣スレトモ彼地ハ難海ノ隔島ニテ
秋季ニ至レハ著船ナシ難ク測ラス向地ニ到ルコト

アリ因テ豫メ船ノ間尺ヲ檢シ其高ニ應シテ定額ノ
税ヲ收入スヘシ
北海道國內ニ廻漕スル船ハ産物ヲ積取リ歸帆ノト
キ四港ノ内ニ入ルヘキハ勿論ナルニヨリ譬ヘハ壽
都ニ入ラント欲スルモ風順ニテ函館ニ入り直ニ向
地ニ出帆スルトキハ其港ニ於テ定額ノ税ヲ收入ス
ヘシ
四港ノ内ニ於テ産物類ヲ積取リ出帆セシ船風順惡
ク再ヒ其港ニ返リ滯船中航海ノ期節ヲ失ヒ其貨物
ノ内陸揚ヲ爲スモノハ既ニ納税ヲ了レルニヨリ翌
年其船ニ積入ル、トキハ收税セスト雖モ若シ他船

ニ賣ルトキハ更ニ荷物税ヲ收入スヘシ
諸廻船四港ノ内ニ於テ産物ヲ積取リ納税シテ出帆
免狀下付ノ後便宜ニヨリ其荷物ヲ他船ニ賣ルトキ
ハ又雙方ヨリ税金ノ半額ヲ收入スヘシ但出帆ヲ許
ス日ヨリ三日以内ニ賣ルトキハ賣主ハ免税シ買主
ヨリ半額ヲ收入スヘシ
諸藩用船雇船間尺石高ノ内其用物三分ノ二以上ヲ
積來ルモノハ三分一ノ面役ヲ收入シ船頭自己ノ賣
荷物ヲ石高三分ノ二以上積來リ空船ニテ出帆ノト
キハ本面役ヲ收入シ其以下ハ三分一ノ面役トス但
産物類ヲ積取ルトキ北海道國內ノ船ハ五人乗マテ

八面役ヲ收入シ其餘六人乗以上且向地ノ船ハ石役
ヲ收入ス又賣荷ヲ積來ル船四港内ニ於テ諸家ノ雇
船トナルトモ面役ハ免除セス但諸藩用船雇船四港
内ニテ其用物ヲ陸揚シ空船歸帆ノトキ及ヒ官ノ廻
米船風待ノタメ入港ノトキハ常燈料ヲ收入スヘシ
諸廻船四港ノ内ニテ港役ヲ納メシ後他ノ三港ニ出
入スルハ常燈料ノミヲ收入スヘシ
空船ニテ出帆スルトキハ面役ヲ收入スヘシ
石役ヲ納テ出帆スル船買積ノ産物不足ニテ石高ノ
五分ノ一以下ナルトキハ半石役ヲ收入スヘシ但石
高五分ノ一以上トキハ本石役ヲ收入スヘシ

官ノ廻米船陸揚ノ後産物類ヲ積載シテ出帆スルト
キハ石役ヲ收入スヘシ但空船ニテ出帆スルトキハ
常燈料ノミヲ收入スヘシ
諸廻船ノ交モ四港ニ廻漕スルモノハ積荷ノ有無ニ
拘ラス石役ヲ收入ス但北海道国内ノ中遣船以下ハ
常燈料ノミ大遣船ハ半石役二人乗以上及ヒ南部
津輕ノ天當船ハ石役ヲ收入スヘシ
北海道国内ノ地船向地ニ出帆ノトキ六人乗以上ハ
石役ヲ收入シ五人乗以下ハ面役ヲ收入スヘシ
函館港ハ龜田全郡幌泉港ハ幌泉全郡壽都港ハ壽都
全郡手官港ハ高嶋全郡各其地船ニテ郡内ヲ限り荷

物積載ノ爲メ廻漕スルモノハ小廻シト唱ヘ常燈料ノミヲ收入スヘシ
北海道國內ノ薪炭ヲ其地船ニテ本道ヲ限り廻漕スルモノハ常燈料ノミヲ收入スヘシ但向地ノ船ヲ以テスルモノ及ヒ向地ヨリ積來ルトキハ役錢ヲ收入スヘシ
諸廻船向地ヨリ積來ル荷物ハ都テ向地ニ輸出スルヲ許サス但陸羽ヨリ輸入スル蠶種紙鯨骨馬骨ニ限り輸出スルヲ許シ定稅ヲ收入スヘシ
諸船積入ノ食料ハ免稅ス
北海道國內ニ於テ材木並ニ樵木ヲ伐採シテ他國ニ

輸出スルトキハ津出役トシテ雜木ハ角長二間尺ニ直シ一本ニ永貳百文丸太ハ長二間末口一寸ノモノ一本ニ永五拾文樵木ハ一本ニ永百文ヲ收入スヘシ但薪炭ハ輸出スルヲ許サス
向地ヨリ出稼ノ爲メ四港管内ニ來居ル者ハ滞在役トシテ男一人ニ永百文女ハ永五拾文ヲ年々收入スヘシ但六個月未滿ニシテ歸國スル者及ヒ十五歲以下十一歲マテハ男女トモニ各半減ヲ收入シ十歲以下ハ免役トス但從前ノ越年役水揚料稼方役ヲ廢シ且四港外ニ來居ル者ハ免役スヘシ
向地並ニ地方ヨリ來居ル職人ハ役永百貳拾五文ヲ

收入スヘシ但小頭ハ免役弟子ハ三年間ヲ免シ四年
 ヨリ半役ヲ收入シ師ヲ離レタル者ハ本役ヲ收入ス
 問屋ノ口錢諸貨物代價ノ二分受領セシヲ廢ス彼我
 ノ約ヲ以テスルハ隨意トス但輸入ハ一分輸出ハ一
 分五釐ヲ過クヘカラス且外國船ニ積來ル荷物ノ賣
 買ヲ處辨スルトキハ貨主ヨリ受領スル口錢ノ半額
 ヲ海官所ニ上納スヘシ
 稅員定則左ノ如シ

輸出稅

生鮮 百石ニ永五貫貳百五拾文

但十二月ヨリ翌春彼岸マテ

生鮮 百石ニ永四貫貳百五拾文

但春彼岸後

走身欠鮮 百石ニ永貳拾七貫文

中鮮 百石ニ永拾九貫貳百五拾文

後鮮 百石ニ永拾五貫貳百五拾文

胴鮮 百石ニ永四拾壹貫八百文

外割鮮 百石ニ永貳拾九貫貳百五拾文

撰數ノ子 百石ニ永貳拾七貫七百五拾文

不撰數ノ子 百石ニ永貳拾七貫七百五拾文

白子 百石ニ永拾四貫貳百五拾文

笹目 百石ニ永貳拾四貫四百文

鮮絞粕 百石ニ永貳拾四貫四百文

但渡島國出產

鮮絞粕 百石 = 永貳拾七貫文

子マイ粕 百石 = 永貳拾六貫貳百文

鯰絞粕 百石 = 永貳拾六貫文

鰯絞粕 百石 = 永貳拾四貫四百文

鰯絞粕 百石 = 永貳拾貫文

但渡島國出產

鰯國絞粕 百石 = 永拾六貫八百文

鰯粕 百石 = 永拾四貫八百文

鰯骨殼粕 百石 = 永五貫四百文

雜魚粕 百石 = 永貳拾四貫四百文

鯨骨 百石 = 永三貫五百文

馬骨 百石 = 永三貫五百文

乾鮑 百石 = 永四拾三貫文

乾鹹 百石 = 永拾六貫五百文

乾鮭 百石 = 永貳拾三貫五百文

乾鱈 百石 = 永七拾壹貫九百文

棒鱈 百石 = 永七拾貳貫三百文

乾鮫 百石 = 永貳拾貫三百文

煎海鼠 百石 = 永四百四拾壹貫文

乾鮑 百石 = 永三百四拾四貫文

鰻 百石 = 永百五拾三貫文

鱈ノ胃 壹萬個 = 永壹貫四百文

帆立身 壹萬個 = 永壹貫文

帆立貝 壹萬枚ニ永貳貫百文
生井鹽切鮓 百石ニ永九貫六百文

鹽鮓 百石ニ永拾七貫八百文

鹽鱒 百石ニ永拾九貫五百文

鹽鱒 百石ニ永拾五貫八百文

鹽鮓 百石ニ永四拾貫九百文

但幌泉郡 十勝國 釧路國 根室國ノ内而別、

濱益郡 天鹽國 北見國 樺太洲出產

樺太洲出產ニ限リ總テ出港ノ稅ノミヲ收入ス
ヘシ

鹽鮓 百石ニ永三拾七貫貳百文

但三石郡 根室國 千島國出產

鹽鮓 百石ニ永三拾壹貫百文

但渡島國 後志國 石狩國 膽振國 日高國

出產

鹽鮓 百石ニ永貳拾九貫貳百文

但幌泉郡 十勝國 釧路國 根室國ノ内西別、

濱益郡 天鹽國 北見國 樺太洲出產

鹽鮓 百石ニ永貳拾五貫貳百五拾文

但三石郡 根室國 千島國出產

鹽鮓 百石ニ永拾九貫六百文

但後志國 石狩國 膽振國 日高國出產

筋子 貳斗八 百樽 = 永五貫百貳拾五文

解子 貳斗八 百樽 = 永貳貫六百元

鹽鱒 百石 = 永貳拾四貫文

但劔路國 千島國 根室國 天鹽國 北見國

出產

鹽鱒 百石 = 永拾八貫七百文

但石狩國 樺太洲出產

魚油 四斗八 百樽 = 永三拾貳貫五百文

魚油 四斗八 百樽 = 永貳拾五貫九百元

但渡島國出產

硫黃 百石 = 永拾壹貫三百文

昆布 百石 = 永三拾貳貫九百元

但日高國 十勝國出產

昆布 百石 = 永貳拾九貫六百元

但劔路國 天鹽國出產

昆布 百石 = 永貳拾六貫六百元

但利尻郡 根室國出產

昆布 百石 = 永貳拾四貫九百元

但シコタン島國尻郡出產

昆布 百石 = 永貳拾貳貫五百文

但石狩國 北見國 勇拂郡 沙流郡 樺太洲

出產

昆布 百石ニ永貳拾貫三百文

但後志國出產

長切昆布 百石ニ永拾貳貫三百文

但渡島國根田內村出產

長切昆布 百石ニ永六貫貳百文

元楠昆布 百石ニ永貳拾五貫四百文

花折昆布 百石ニ永拾九貫三百文

茅部折昆布 百石ニ永拾五貫四百文

早前昆布 百石ニ永六貫五百文

刻昆布 百石ニ永六拾六貫文

布海苔 百石ニ永拾八貫文

銀南草 百石ニ永拾貳貫八百文

若和布 百石ニ永五貫八百文

上鹿皮 百石ニ永百貳拾三貫百文

中鹿皮 百石ニ永八拾八貫貳百文

下鹿皮 百石ニ永六拾貳貫貳百文

鹿角 百石ニ永百五貫文

鹿爪 百石ニ永貳拾六貫三百文

殼蛹 百石ニ永壹貫七百八拾五文

屑殼蛹 百石ニ永五百五拾五文

罽種紙 五分種 百枚ニ永三貫四百八拾五文

右稅額ハ卯辰巳三ヶ年元代相場平均高ノ六分ヲ以

ヲ之ヲ定ム但入港出港半高ツ、收入スヘク且前ニ
掲ケサル産物輸出ノトキハ其時ノ相場元代ヨリ六
分税ヲ出入ニ半高ツ、收入スヘシ

材木津出役

雜木角	長二間尺	一本ニ永	貳	百	文
丸太	長二間末	一本ニ永	五	拾	文
櫂木	口一寸	一本ニ永	百		文

石役

船幅	九尺六寸餘	ヨリ	永	貳	貫	三	百	文		
百六拾石	マテ		永	三	貫	四	百	文		
貳百六拾石	餘	ヨリ	永	四	貫	五	百	貳	拾	文
貳百六拾石	マテ									
三百六拾石	マテ									

三百六拾石	餘	ヨリ	永	五	貫	六	百	四	拾	文	
四百六拾石	マテ		永	拾	貳	貫	五	百	五	拾	文
五百六拾石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	六	百			
六百六拾石	マテ		永	拾	貳	貫	六	百			
七百六拾石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	六	百			
八百六拾石	マテ		永	拾	貳	貫	七	百			
九百六拾石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	七	百			
千六拾石	マテ		永	拾	貳	貫	八	百			
千六拾石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	八	百			
千貳百石	マテ		永	拾	貳	貫	八	百			
千貳百石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	八	百			
千三百石	マテ		永	拾	貳	貫	九	百			
千三百石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	九	百			
千四百石	マテ		永	拾	貳	貫	九	百			
千四百石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	九	百			
千五百石	マテ		永	拾	貳	貫	九	百			
千五百石	餘	ヨリ	永	拾	貳	貫	九	百			

千五百石餘ヨリ	永拾三貫八拾文
千六百石マテ	
千六百石餘ヨリ	永拾三貫百三拾文
千七百石マテ	
千七百石餘ヨリ	永拾三貫百八拾文
千八百石マテ	

右ノ外積石増加スル船ハ百石コトニ永五拾文ヲ増
收スヘシ

面役

二人乗 永七百五拾文

但大中遣船中遣船圖合船三半船筒船并ニ南部
津輕ノ天當船等南部津輕地行キノトキハ半面
役ヲ收入ス

三人乗 永壹貫百貳拾五文

四人乗	永壹貫五百文
五人乗	永壹貫八百七拾五文
六人乗	永貳貫貳百五拾文
七人乗	永貳貫六百貳拾五文
八人乗	永三貫
九人乗	永三貫三百七拾五文
十人乗	永三貫七百五拾文
十一人乗	永四貫百貳拾五文
十二人乗	永四貫五百文
十三人乗	永四貫八百七拾五文
十四人乗	永五貫貳百五拾文

大日本国志 卷之四十六 五十七 大蔵省

十五人乗 永五貫六百貳拾文

十六人乗 永六貫文

十七人乗 永六貫三百七拾五文

十八人乗 永六貫七百五拾文

常燈料

船一艘 永五拾文

但大小ニ拘ラス收入スヘシ

帆形役

帆布六段 永百五拾文

帆布八段 永貳百文

帆布十一段 永貳百七拾五文

帆布十四段 永三百五拾文

帆布十六段 永四百文

帆布十八段 永四百五拾文

帆布二十段 永五百文

帆布廿一段 永五百貳拾五文

帆布廿二段 永五百五拾文

帆布廿四段 永六百文

帆布廿六段 永六百五拾文

鱒取船役

ホツチ船一艘三人乗 金壹兩貳朱

持符船一艘四人乗 金壹兩貳分

三半船一艘六人乘 金貳兩壹分

乘替船一艘八人乘 金三兩

圖合船一艘十三人乘 金四兩三分貳朱

中遣船一艘 永五百文

是ハ前ノ漁船其漁場ニ圍置キタル後翌春中遣船ニ乘來ルモノ乗船役トシテ收入ス

合船并ニ修覆船役

合船

辨財船 幅九尺七寸以上 百石ニ金八兩

修覆

辨財船 百石ニ金四兩

但北海道國內ノ材木ヲ用フルモノ

合船

辨財船 百石ニ金五兩

修覆

辨財船 百石ニ金貳兩貳分

但北海道國內ノ材木ト向地ノ材木ト半ハ取交ヘ用フルモノ

合船

辨財船 百石ニ金貳兩

修覆

辨財船 百石ニ金壹兩

但向地ノ材木ヲ用フルモノ

合船

大中遣船

幅八尺七寸ヨリ
九尺六寸マテ

百石ニ金五兩貳分

修覆

大中遣船

百石ニ金貳兩三分

合船

中遣船

幅七尺七寸ヨリ
八尺六寸マテ

一艘ニ金壹兩貳分

修覆

中遣船

一艘ニ金三分

合船

圖合船

幅六尺七寸ヨリ
七尺六寸マテ

一艘ニ永五百三拾文

修覆

圖合船

一艘ニ永貳百六拾五文

合船

筒船

幅七尺ヨリ
一丈マテ

一艘ニ永五百三拾文

修覆

筒船

一艘ニ永貳百六拾五文

合船

三半船

幅五尺一寸ヨリ
六尺六寸マテ

一艘ニ永三百五拾文

修覆

三半船

一艘ニ永百七拾五文

但三半船ノ幅尺ニテ筒替或ハ大持符造リ合船

ノトキハ永貳百六拾五文修覆ノトキハ同百三拾貳文ヲ收入ス

合船

持符船 幅三尺一寸ヨリ 一艘ニ永百七拾五文

修覆

持符船 一艘ニ永八拾七文

合船

磯船 幅三尺 一艘ニ永八拾七文

修覆

磯船 一艘ニ永四拾三文

職人役

諸職一人

永百貳拾五文

但小頭ノ分ハ免役且弟子附ノ者ハ三今年免役
四今年ヨリ職札ヲ交付シ半役ヲ收入ス其後師
匠ヲ離レタル者ハ本役ヲ收入ス

滞在役

男一人

永百文

女一人

永五拾文

男子一人

十五歳ヨリ 永五拾文

女子一人

十五歳マテ 永貳拾五文

但六个月未滿歸國ノ者ハ總テ半役ヲ收入ス
輸入税ハ海官所ニ於テ毎月三度物品ノ相場ヲ調

查シ諸品入港ノ時々相場元代高ノ一分五釐稅ヲ
收入スヘシ

右明年正月ヨリ施行スヘシ若シ年月ヲ經テ相場ノ
昂低有レハ斟酌平均シテ稅額ヲ改ルコトアルヘシ
〔三年十二月開拓使布達〕向地ヨリ輸入ノ諸品ハ其船
積高ノ四割ヲ用捨シ殘高其時價ノ原額ノ一分五釐
ヲ收稅スヘシ但納稅ノ後本道國內ニ輸出スルトキ
ハ無稅トシ米鹽ヲ除クノ外ハ向地ニ輸出スルヲ許
シ一分ヲ收稅スヘシ
北海道産物ハ前條ニ准シ殘高時價原額ノ四分ヲ稅
額トシ出入コトニ半額ツ、ヲ收入スヘシ

〔按〕是レ二年ノ布達ヲ改正シ石役面役帆形役ヲ
港役ト爲シ諸船積高百石ニ永壹貫文ノ計算ヲ
以テ五分拾石以上ノ船ヨリ出港ノ時收入スルモ
ノト爲ス其事故ニ由リ十分一十分二若クハ三
分一三分二或ハ半額ノ別アリ常燈料ハ尙小前
數ヲ以テシ釐取船役金ヲ減シテ金壹分トシ又
材木津出永ヲ減シ滞在役ヲ廢スル等ノコトア
リト雖モ大同小異トス因テ之ヲ略ス而シテ是
歲正月商船規則ノ頒布アリ開拓使管下ハ日本
形商船ノ規則ニ准シ之ヲ本稅中ニ收入シ以
テ從前ノ合船役修履船役ヲ廢セリ四年給稅規
則ノ改正アルニ及ヒ稟申シテ尙ホ先規ニ仍
入シ六年以來更ニ商船稅ノ目ヲ設ケリ

〔五年正月八日開拓使達〕北海道ハ邊海懸隔ノ地ニシ
テ政化モ自ラ遠ク人民物産モ繁殖シ難ク且己ノ
兵燹ニ罹リ猶更多少ノ困難ヲ受ケ自然營生窘苦ナ
ルニヨリ今般全地更ニ開拓使ノ管轄トセラレ殊ニ

衰微ヲ哀恤セラル、朝旨ヲ以テ本年ヨリ三ヶ年
外國貿易ノ外海關所輸出入品都テ免稅セラレタリ
全地ノ人民非常ノ天恩ヲ奉戴シ各自其業ヲ勵ミ生
産繁殖土地潤富ニ至ルヲ注意スヘシ

〔按〕是歲二月函館海關所假規則ノ設ケアリ乃チ
三年ノ規則中輸出入品ノ收稅及ヒ舁取船役ヲ
廢除シ唯港役常燈料ハ
先規ニ仍テ收入セリ

〔八年二月四日布告〕北海道ハ開拓草創ノ際ニシテ一
般ノ稅則モ行ハレ難キヨリ官金ヲ以テ民費ヲ補フ
モノ多シ因テ全道堤防道路ノ修築又ハ賑給等專ラ
人民興益ノ用ニ充ツヘキタメ該地限り産物出港稅
則左ノ如ク本年四月一日ヨリ施行ス

北海道諸産物ノ鑛屬及ヒ穀類麻卵紙生絲器具ノ除
クノ外各府縣下ニ向テ出港スルモノハ出港稅トシ
テ其原價百分ノ四ヲ船政所ニ納ムヘシ
諸産物ノ原價ヲ定ムルハ各港ニ於テ各月上中下旬
三回賣買價直ヲ檢査シテ稅額ノ原位ヲ得若シ其當
ヲ得サルモノアラハ賣買仕切狀ヲ臨時檢査シテ之
ヲ定ムヘシ
北海道産物ヲ積載ノ船一ノ船政所ニ於テ規則ニ據
リ出港稅ヲ納メ出帆免狀ヲ下付スヘシト雖モ奥地
離嶋等ヨリ直ニ各府縣下ニ輸送ヲ乞フモノハ其積
受ノ地ニ航行ノ際豫メ其積載スヘキ産物ノ額ヲ計

算シ積荷目録ヲ製シ願書ヲ出スヘシ其船改所ニ於
テハ積荷目録ノ額ニ從ヒ定則ノ税金ヲ先收シ其目
録ニ稅納濟ノ檢印ヲ捺シ願書ニ奧書シテ下付スヘ
シ但許可ヲ得テ其地ニ到リ產物ヲ積載セハ其地方
役所ノ檢査ヲ受クヘシ役所ニ於テハ積荷目録ニ照
シ若シ荷物不足ノトキハ其事ヲ詳記シタル書ヲ船
長ニ下付ス之ヲ翌年七月マテニ前ニ納稅スル船改
所ニ出サハ過納ノ金額ハ返付スヘシ
樺太州諸產物ハ總テ免稅ナリト雖モ北海道地方ニ
陸揚シ他ノ商人ニ賣付シタル後再ヒ船積シテ各府
縣下ニ向テ出港スルトキハ北海道諸產物ニ同ク出

港稅ヲ納ムヘシ
諸產物甲港船改所ニ納稅シ乙港ニ入津陸揚セハ乙
ノ船改所ニ於テ檢査シ出帆免狀積荷目録ヲ收受シ
其甲港ニ納タル税金ヲ返付スヘシ但再ヒ其品ヲ船
積シ各府縣下ニ向テ出港スルトキハ更ニ規則ニ據
リ出港稅ヲ納ムヘシ
暴風等ノ難ニ依テ各府縣下ニ入津スルトキハ其地
船改所又ハ役所ニ於テ審査シ疑ナキニ於テハ出港
稅即チ其積載セル物品ノ原價其地賣買ノ代價ヨリ
運賃ヲ除キ之ヲ定ム
百分ノ四ヲ收入スヘシ

〔按〕是時海關所ヲ改テ船改所ト爲シ即チ之ヲ渡
島國函館福山江差釧路根室釧路後志國小樽壽都

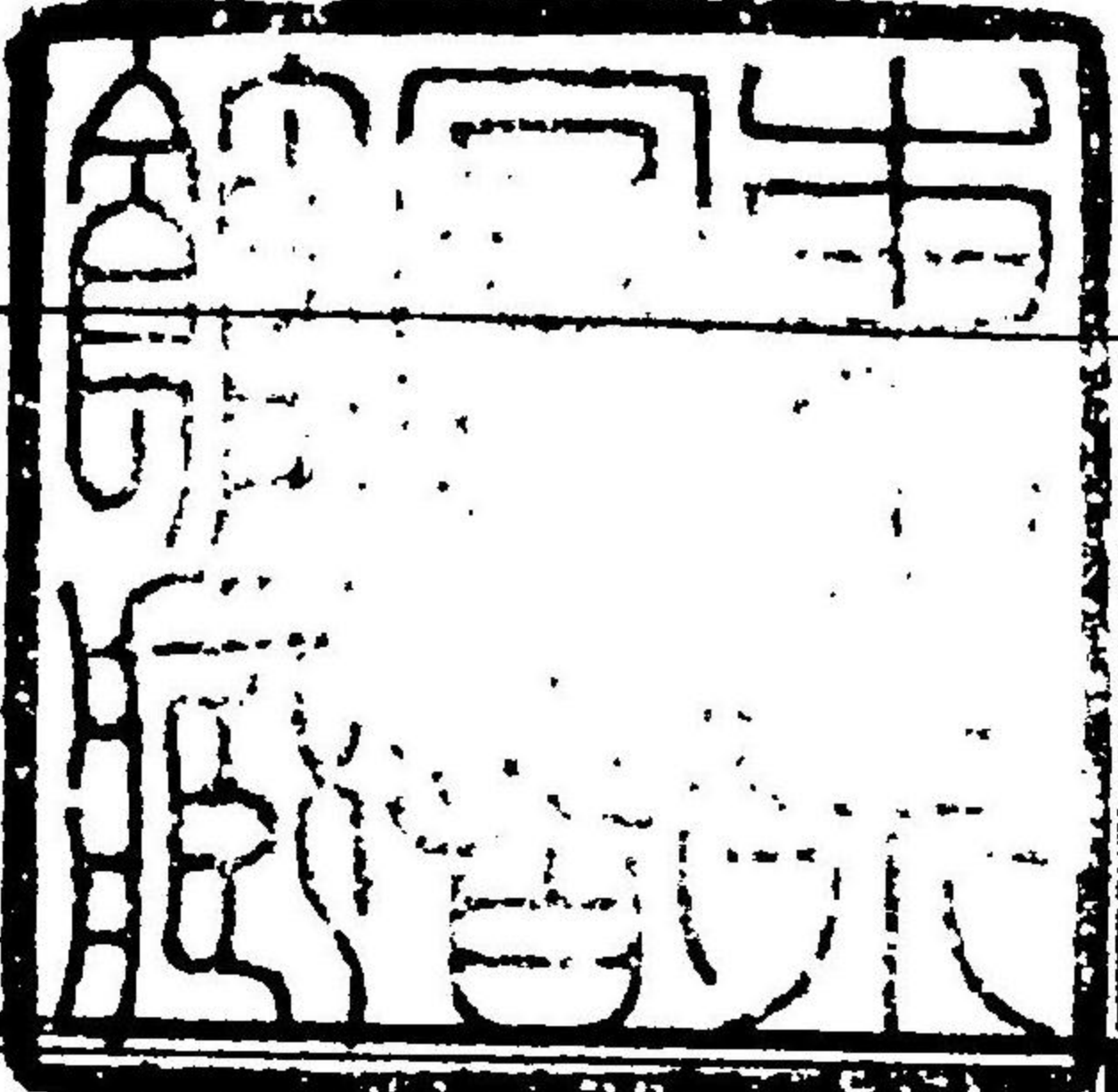
鋼路國厚岸ノ七港ニ設ケ而シテ檢査願書出帆
免狀積荷目録ノ番式其他ノ細則總テ十一條アリ
リ今其要ヲ摘録ス後テ船改所ノ増設改置及ヒ
規則ノ修正等一二ノ令アリト雖モ稅率ハ變更
スルコトナシ
因テ之ヲ略ス

大日本租稅志卷之四十六終

大日本租稅志

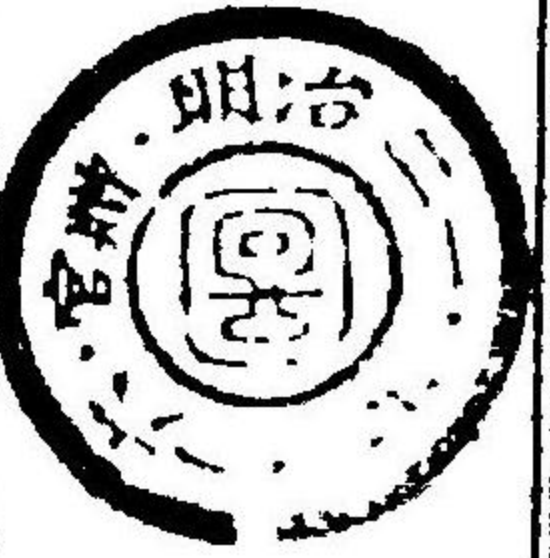
二十二

朝 春 園 泉 棠				
30	26	2	16	
冊	号	架	函	類



大日本租稅志卷之四十七

大藏權少書記官正七位野中準等修



海關稅

〔按〕外國貿易舊幕府ノ時既ニ交通スル各國ハ一
ニ其條約ニ違ヒ維新以後交通スルモ即チ瑞
典西班牙獨逸澳地利布哇清秘魯ノ諸國亦概チ
舊約各國ノ定例ニ仍リ僅ニ修正ヲ加フル一過
キス舊幕府定ル所ノ稅則ハ戰テ前卷ニ在リ今
新約諸國條項中ノ一二及ヒ本稅ニ關スル法令
ノ要領ヲ茲ニ摘録ス而シテ借庫料ハ二年之ヲ
改正スト雖モ亦小異有ルニ過キス因テ之ヲ省
ス

〔今上天皇明治元年九月廿八日西班牙國條約〕輸出入
品ハ稅則ニ從ヒ運上ヲ拂フヘシ

輸出入品運上目録ハ慶應二年五月十三日ノ改稅條約ニ同シ但左ノ箇條ヲ加フ

第一種

煎海鼠

百斤ニ一分銀三箇

第二種(無稅品)

マニラノ綱 椰子油

第四種(元代ニ隨ヒ五分ノ稅ヲ納ムヘキ品)

マラガ乾葡萄 鼈甲 青貝 鳥ノ巢

〔按是時結納ノ條款此ニ止ラス然トモ其當ニ採録スヘキモノハ前卷載ル所ト字句差異有ルノト箱館港輸出ノ材木稅トヲ追加ス材木稅ハ既

〔二年正月十日獨逸北部聯邦條約〕總テ陸揚スル物品ハ運上目録ニ從ヒ運上ヲ拂フヘシ

輸入品運上目録ハ總テ慶應二年五月十三日ノ改稅條約ニ同シ但左ノ物品輸入稅ヲ減ス

第一種

木綿襦袢同股引

十二ニ一分銀〇二五

毛織襦袢同股引

十二ニ一分銀〇八

毛木綿交織襦袢同股引

十二ニ一分銀〇五

〔按改稅條約中是品目ヲ載ス而シテ其稅率稍ヤ此ヨリ重シ是時諸國亦同ク其率ヲ減セリ而シテ輸出品ノ追加ハ前條西班牙國ニ同シ是歲九月澳地利國條約ハ本文ニ同シ又四年七月布哇

國條約六年八月秘魯國條約ハ諸國ニ准シ別ニ
稅則ヲ設ケス清國條約亦大同小異ノミ故ニ皆
之ヲ省
畧ス

〔三月九日布告〕從前外國人ニテ銅ヲ輸出スルハ政府
入札ノ外禁止セリト雖モ自今他品同一五分ノ稅ヲ
以テ輸出スルヲ許ス

〔六年二月十日達〕硝石ハ從前輸出禁止セリト雖モ自
今他品同一五分ノ稅ヲ以テ輸出スルヲ許スヘシ
〔六月十四日達〕官省使察司及ヒ府縣官員留學生徒等
政府ノ命ヲ奉シ海外ニ航旅スル者ハ公用荷物並ニ
本人相當ノ旅具ヲ除クノ外輸出入トモ商品同一ニ
收稅スヘシ

官員留學生徒發著ノ前後輸出入又ハ他邦滯留中送
致スル貨物等大藏省ノ無稅通關證書ナキモノハ商
品同一ニ收稅スヘシ

華士族平民商業或ハ留學遊歷等ノ爲メ自費ヲ以テ
海外ニ渡航スル者ハ荷物輸出入ノ際本人相當旅具
ヲ除クノ外一切收稅スヘシ

官省使察司及ヒ府縣ニ於テ雇役ノ外國人自用品ヲ
其自國又ハ他國ヨリ取寄セ或ハ我國産品ヲ其本國
ニ送致スルモノ自今約定書中自用品無稅通關ヲ許
スノ明文無キモノハ輸出入トモ商品同一ニ收稅ス
ヘシ

國條約六年八月秘魯國條約ハ諸國ニ准シ別ニ
稅則ヲ設ケス清國條約亦大同小異ノミ故ニ皆
之ヲ省
畧ス

〔三月九日布告〕從前外國人ニテ銅ヲ輸出スルハ政府
入札ノ外禁止セリト雖モ自今他品同一五分ノ稅ヲ
以テ輸出スルヲ許ス

〔六年二月十日達〕硝石ハ從前輸出禁止セリト雖モ自
今他品同一五分ノ稅ヲ以テ輸出スルヲ許スヘシ
〔六月十四日達〕官省使察司及ヒ府縣官員留學生徒等
政府ノ命ヲ奉シ海外ニ航旅スル者ハ公用荷物並ニ
本人相當ノ旅具ヲ除クノ外輸出入トモ商品同一ニ
收稅スヘシ

官員留學生徒發著ノ前後輸出入又ハ他邦滯留中送
致スル貨物等大藏省ノ無稅通關證書ナキモノハ商
品同一ニ收稅スヘシ

華士族平民商業或ハ留學遊歷等ノ爲メ自費ヲ以テ
海外ニ渡航スル者ハ荷物輸出入ノ際本人相當旅具
ヲ除クノ外一切收稅スヘシ

官省使察司及ヒ府縣ニ於テ雇役ノ外國人自用品ヲ
其自國又ハ他國ヨリ取寄セ或ハ我國産品ヲ其本國
ニ送致スルモノ自今約定書中自用品無稅通關ヲ許
スノ明文無キモノハ輸出入トモ商品同一ニ收稅ス
ヘシ

前ニ掲ル外國人來著又ハ滿期歸國ノ時輸出入ノ荷物本人相當旅具ヲ除クノ外ハ商品同一ニ收稅スヘシ

〔七月十五日布告〕米麥ハ從前海外輸出禁制タリト雖モ海關無稅ヲ以テ本年八月一日ヨリ輸出スルヲ許ス

〔按〕客歲内外人民米麥輸出ノ爲メ大藏省儲米有餘ノモヲ投票買收スルコトヲ許セリ是ニ至テ迷ニ是布告アリ而シテ七年五月米ノ輸出ヲ禁シ八年三月復タ之ヲ許セリ蓋シ時宜ニ隨テ之ヲ卷舒スルナリ

〔三十日大藏省ニ達〕自今特命全權大使及ヒ隨行官員其他各國派出交際上ニ關係スル諸官員ノ荷物ハ特別ノ

詮議ヲ以テ無稅通關ヲ許スヘシ

〔十一月十七日布告〕粍ニ米麥ノ海外輸出ヲ許スニヨリ米麥粉モ同一無稅ヲ以テ輸出スルヲ許ス

〔七年三月十七日布告〕銅錢ハ從前海外輸出禁制タリト雖モ自今金銀貨同一輸出スルヲ許ス

〔八年八月二十日達〕粍ニ官用品ノ輸入ハ該廳長次官ノ證書ヲ以テ無稅通關ヲ許スト雖モ來九年一月一日ヨリ都テ定則ニ從テ收稅スヘシ

〔按〕初メ官用輸入品ヲ無稅ニ屬スルハ其販賣收利セサルニ因レリ然ルニ其購求品必シモ官廳ノ備用タラス以テ官設工場器械製作ノ用ニ供スルモノ多シ即チ造船場用銅鐵ノ如キハ内外人民ノ請ニ應シ其船舶ヲ修理シテ工費ヲ收メ其他工場ニ於テ器物ヲ製造シテ販賣スル等皆

多少ノ收利アリ而シテ其資材猶官用ヲ以テ無
税ニ處スルハ不可ナルヲ以テ一般收税センコ
トヲ大藏省ヨリ建議
ス因テ此布告アリ

〔九年八月十一日布告〕内國製ノ西洋紙土錠ハ暫ク無
税輸出ヲ許ス

〔十月十四日布告〕朝鮮國貿易品ハ輸出入トモ内地ニ
於テ諸物品ヲ運送スルト同一タルヘシ

〔十一月十三日布告〕内國製ノ水錠ハ暫ク無税輸出ヲ
許ス

〔十二月一日布告〕露西亞國領樺太島貿易ハ暫ク内國
産物内地運送ト同ク諸船舶出入港手数料及ヒ輸出
入物品税ヲ免除ス

〔十年三月三日布告〕内國製ノ摺附木ハ暫ク無税輸出
ヲ許ス

〔七月七日布告〕硝石ノ輸出本年八月十日ヨリ暫ク之
ヲ禁止ス

〔按〕是時九州ニ兵役アリ各港船舶ノ往來兵器ノ
運送管理頗ル嚴密ヲ加フ因テ之ヲ禁ス是歲十
月事平クヲ以テ十一月
再ヒ其輸出ヲ許セリ

〔十二月十八日布告〕内國製木綿メリヤス襪裨股引ハ
無税輸出ヲ許ス

〔十一年九月七日布告〕内國製フラ子ル紋羽綾木綿ノ
三種ハ無税輸出ヲ許ス

〔十二年六月十三日布告〕本年七月一日ヨリ左ノ物品

無稅輸出ヲ許ス

木綿織物 絹織物 絹綿交織物

衣服 陶器 磁器

七寶器 漆器 竹器

銅器 鍍器 紙

扇子 團扇 傘

〔十三年六月五日布告〕本年七月一日ヨリ左ノ物品無稅輸出ヲ許ス

書 畫 革

寶石石木土、籐、草、櫻欄、骨、角、甲、貝、牙、皮、革、蹄、羽、毛、紙、絲、織物、鯨鬚、琥珀、珊瑚、眞珠、玻璃、金屬等ヲ以テ單ニ製

作シ或ハ相交テ製作シタル諸品並ニ右各種ト他ノ物質ヨリ成ル諸製作品

〔七月二十日布告〕本年八月一日ヨリ硫酸ノ無稅輸出ヲ許ス

大日本租稅志卷之四十七終

大日本租稅志卷之四十八

大藏權少書記官正七位野中準等修

地方稅

〔按〕本稅ハ府縣廳ニ收入シテ其費用ニ充ルモトス明治八年從來ノ府縣ノ廢シ尋テ府縣稅ノ稱ヲ設ケ其賦課專ラ府縣ノ便宜ニ任ス是ヲ以テ種別百餘種ニ至ルモ稱ヲ以テ徵收スルモ有リ音名目異同有ルニミナラズ賦課輕重均カラス其以テ地方ノ費用ニ供給スルヤ固ヨリ一定ノ法無ル可ラヌ十年ニ至リ本規則ノ施設アリ而シテ其徵收支出ノ細則ハ乃チ府縣會議定ヲ以テセシム今稅則沿革ノ要領ヲ此ニ

〔今上天皇明治六年七月廿八日布告〕今般地租改正ニ

ヨリ従前官廳及ヒ郡村入費等地所ニ課シテ收入ス
ルモノハ總テ地價ニ賦課シ其金額ハ本租金三分ノ
一ヨリ超過スヘカラス

〔七年一月十九日布告〕僕婢馬車人力車等諸税ノ分増
並ニ劇場藝妓等ノ諸税各府縣限リ收入ノモノハ自
今賦金ト唱フヘシ

〔按明治六年僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸税
ノ起ルニ方テ其税額ノ外幾分ヲ増課シ以テ修
路警察等ノ諸費ニ充ルハ府縣ノ
適宜ヲラシム故ニ此布告アリ

〔八年二月二十日布告〕從來ノ雜税本年一月一日ヨリ
廢止ス其内將來一般ニ課税スヘキモノアルヘシト
雖モ即今收税セサレハ營業管理ニ障礙アルモノハ

姑ク地方ニ於テ更ニ收税スヘシ事雜税總錄條
中ニ具レリ

〔七月八日達〕從來夫米夫錢堤銀等ノ名稱ヲ以テ特ニ
治水修路ノ爲メ收入スルモノハ總テ廢止シ各府縣
限リ適宜賦課法ヲ設クヘシ

〔九月八日布告〕從來ノ租税賦金ヲ國稅府縣稅ノ二款
ニ分チ左ノ如ク處分スヘシ

國稅

全國一般ニ賦課スヘキモノニシテ大藏省ニ收
入シ國費ニ供スルモノヲ謂フ

府縣稅

現今賦金ト稱シ收入スル諸税及ヒ本年二月布

告シタル地方收税ノ類ニシテ其地方ノ費用ニ
供スルモノヲ謂フ但賦課ノ方法及ヒ費途ハ地
方官ニ於テ調査シ大藏省ノ許可ヲ得テ施行ス
ルモノトス

〔按〕是歳十月ニ至リ費途ノ方法ハ内務省ノ許可
ヲ得ヘキノ布告アリ次テ内務省其費目ヲ病院
貧院學校道路橋梁等ノ二十種
ニ概定シ便宜交用ヲ許セリ

〔十月二十日布告〕地租改正法施行ノ後市街地ニ賦課
スル區費ハ地租三分ノ一ヨリ超過スヘカラス

〔九年四月廿八日達〕皇族並ニ各官廳所用ノ諸車ハ從
來府縣稅ヲ徵收セスト雖モ自今御車ヲ除クノ外ハ
徵收スルモ妨ケナシ

〔按〕是歳八月陸海軍專用ノ車ハ
課稅ヲ除クヘキノ布告アリ

〔七月十八日達〕捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ者ハ自今
各地方ニ於テ適宜ニ府縣稅ヲ賦シ營業管理ハ從來
ノ慣習ニ仍リ處置スヘシ事雜科條中
ニ具レリ

〔十月三日内務省達〕捕魚採藻ハ湖川モ總テ海面ニ准
シ處置スヘシ

〔十年一月四日布告〕今般地租減額費用節省ノ發令ア
ルニ依リ民費賦課ハ本年ヨリ正租五分ノ一ヲ超過
スヘカラス

〔七月七日内務省達〕地方民費ノコト先ニ布告アリト
雖モ右ハ地ニ賦課スルノ制限ニテ其他ノ賦課ハ節

減ヲ體認シ假ニ各地適宜ノ方法ヲ定テ施行スヘシ
 〔十一年四月三十日內務省達〕民費ハ目下支消スヘキ
 費用ヲ賦課徵收スルモノニテ改正未濟地租假納ト
 同シカラサルヲ以テ納期三十日ヲ經過セハ直ニ規
 則ニ準シ處分スヘシ

〔按〕本文規則ハ十年十一月ノ布告ヲ謂フ
 職セテ不納條中ニ在リ宜ク參觀スヘシ

〔七月廿二日布告〕從來府縣稅及ヒ民費ノ名ヲ以テ徵
 收スル府縣費區費ヲ改テ地方稅トシ規則ヲ定メ左
 ノ目ニ從テ徵收ス

地租五分一以內

營業稅並雜種稅

戶數割

營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ハ別ニ布告スヘシ
 非常ノ費ハ豫算スヘカヲサルト天別ニ賦課スルヲ得
 ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ經テ內務大藏兩卿ニ報
 告スヘシ其急ヲ要スルモノハ施行ノ後報告スルモ
 ノトス

地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘ
 シ

〔按〕是時地方稅ヲ以テ支辨スヘキモノ、費目ヲ
 定テ警察費河港道路堤防橋梁建築修繕費府縣
 會議諸費流行病豫防費府縣立學校費及ヒ小學
 校補助費郡區區會建築修繕費郡區吏員給料旅
 費及ヒ廳中諸費病院及ヒ教育所諸費浦役場及
 ヒ難破給諸費管内諸達書及ヒ揭示諸費勸業費

戸長以下給料及ヒ戸長職務取扱諸費ノ十二種トス但各町村限及ヒ區限ノ費用ハ其區町村人民ノ協議ニ任セリ同日又右費用中官費支出ニ係ルモノハ尙ホ當ニ依ルヘキノ違アリ

〔十一月廿八日內務省達〕地方稅ヲ不納スルモノ財產ヲ公賣シテ徵收スルモ猶ホ不足スルトキハ其欠額ヲ管内一般ノ損失トシ賦課スヘシ

〔十二月二十日布告〕地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ヲ定ルコト左ノ如シ

營業稅ヲ分テ三類トス其稅額第一類ハ金拾五圓以內トシ第二類ハ金拾圓以內トシ第三類ハ金五圓以內トス其目左ノ如シ但國稅アルモノヲ除ク

第一類 諸會社及ヒ諸卸賣商

第二類 諸仲買商

第三類 諸小賣商及ヒ雜商

雜種稅ハ其種類ニ依リ各稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

船 七年二月布告 船 漁船云々ノ分 車 馬車人力車荷積馬車荷積大車ノ 國稅ノ半額以內

諸市場演劇其他諸興行並遊覽所 上リ高百分ノ五以內

諸遊技場 玉突大弓揚弓 射的吹矢ノ類 一年金貳拾圓以內

料理屋 西洋料理 待合茶屋遊船宿芝居茶屋人寄席 一年金拾貳圓以內

質屋兩換屋 爲替店 廻漕店 一年金拾五圓以內

古著古金古道具類 書骨重 店 トモ 商旅籠屋諸飲食店 屋

縣屋蕎麥 一年金拾圓以內

湯屋理髮床雇人請宿 一年金五圓以內

遊藝師匠遊藝稼人相撲 一年金拾貳圓以內

俳優 一年金六拾圓以內

村間藝妓 一年金四拾貳圓以內

水車 一年金五圓以內

乘馬 自用渡 一年一頭金五拾錢以內

屠牛 一頭金五拾錢以內

漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收ス
ヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントセ

ハ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ稟議スヘシ

府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ類目中ニ於テ賦

課スルモノヲ取捨スルコトヲ得

府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府

縣會ノ決議ヲ以テ制限内ニ於テ稅額ヲ査定スヘシ

一軒内ニ於テ數種ノ營業ヲ爲スモノ又ハ卸賣仲買

小賣ヲ兼ルモノハ其稅額ノ最モ多キ一个ノミヲ徵

收スヘシ

凡ソ稅額ハ一年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ

便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅月稅トシテ之ヲ徵收

スルコトヲ得

前條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ
内務大藏兩卿ニ報告スヘシ

〔十三年四月八日布告〕地方稅中營業稅雜種稅ノ種類
及ヒ制限左ノ如ク改正ス

營業稅目左ノ如シ其制限ハ金拾五圓以內トス但國
稅アルモノヲ除ク

會社

卸賣商

仲買商

小賣商

雜商

雜種稅ハ其種類ニ依リ各稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

製造所 一年金拾五圓以內

船七年二月布告 船漁船云々ノ分 車馬車人力車荷積中 車七六八車荷積中 車小車荷積牛
國稅ノ半額以內

市場演劇其他興行並遊覽所 上リ高百分ノ五以
內

遊技場玉突大弓揚弓 射的吹矢ノ類 一年金貳拾圓以內

料理屋西洋料理 待合茶屋遊船宿芝居茶屋人寄席
一年金拾貳圓以內

質屋兩換屋爲替店 陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル
者 一年金拾五圓以內

古著古金古道具類 書畫骨董 商旅籠屋諸飲食店 屋

縣屋蕎麥 屋ノ類 一年金拾圓以内

湯屋理髮床雇人請宿 一年金五圓以内

遊藝師匠遊藝稼人相撲 一年金拾貳圓以内

俳優 一年金六拾圓以内

村間藝妓 一年金四拾貳圓以内

水車 一年金五圓以内

乘馬 自用渡 一年一頭金壹圓以内

屠畜 一頭金五拾錢以内

漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收ス
ヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントセ

ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩
卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ類目中ニ於テ賦
課スルモノヲ取捨スルコトヲ得

府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府
縣會ノ決議ヲ以テ制限内ニ於テ稅額ヲ査定スヘシ

凡ソ稅額ハ一年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ
便宜ニ依リ年額ニ准據シ日稅月稅トシテ之ヲ徵收

スルコトヲ得
凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ルモノハ各地ノ便宜ニ

依リ上リ高見積ヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收ス

ルコトヲ得

前條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ
内務大藏兩卿ニ報告スヘシ

前條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣
會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具
狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

〔按〕是時地方稅規則ノ改正アリ十一年ノ布告ニ
比シテ唯支辨ノ費目中五ニ流用スルヲ許サ、
ルモノト爲シ且豫備費ノ一項ト爲シ地方稅
ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令
ヨリ内務兩卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ
經費ト分別スルコトヲ得ルノ條トヲ加ヘリ又
五月ニ至リ區ノ地方稅ニ係ル經費ハ郡ノ經費
ト分別スルコトヲ得ルノ布告アリ共ニ之ヲ略

〔五月廿七日布告〕東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會ノ決
議ヲ經テ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ
其制限ヲ殊ニスルコトヲ得

〔按〕此布告中又其水道費瓦斯燈費及ヒ火災豫防
費ヲ地方稅費目中ニ加フルヲ得ルノ條アリ
〔十一月五日布告〕地方稅目中地租五分一以内ヲ三分
一以内ト改定ス

〔按〕布告中地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中ニ府
縣廳舎建築修繕費府縣監獄費府縣監獄建築修
繕費ノ三項ヲ増加シ及ヒ府縣土木費中官費下
付金十四年度ヨリ廢止スルノ條アリ蓋シ歲計
ヲ節約シ紙幣消却ノ元資ヲ増加シ併
テ地方ノ政務ヲ改良スルカ爲ナリ

大日本租稅志卷之四十八終

